

二見書房

第2弾

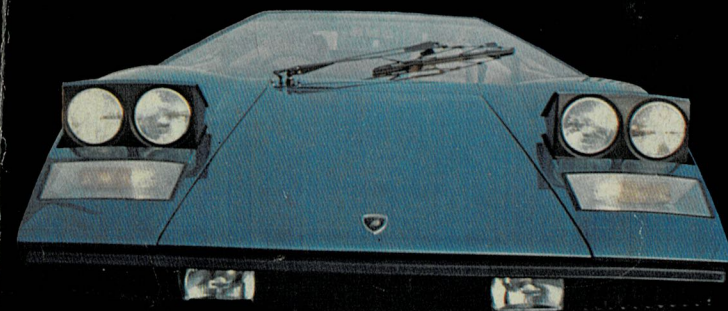
ザ・スーパーカー
カード式

THE
SUPER
CAR
PART II

ザ・スーパーカー [第2弾]

THE SUPER CAR

PART II



スーパーカー豆辞典つき /

カード式

豪華カラー
★カード式 ザ
スーパーカー

¥690

大ベストセラー
きみは、もう買いましたか！

★ランボルギーニ・カウンタックLP400★ランボルギーニ・ミウラ★ボルシェ930ターボ★フェラーリ512BB★マセラティ・メラクSS★アルビノ・ルノーA110★ロータス・ヨーロッパ★メルセデス・ベンツC111……ほか

ザ・スーパーカー [第2弾] © 1977 Printed in Japan.

昭和52年5月11日 初版発行

編者 二見書房編集部
取材 『遊』 企画
印刷 野崎印刷株式会社
製本 株式会社 明泉堂
加工 日本美術ライト商会
写真提供 (MPS, ビッグストーン)

振替 東京 2639 番
電話 東京 (263) 0034 番
東京都千代田区三崎町2-18-2

発行 株式会社 二見書房

*定価は箱に表示してあります。

0636-771223-7339

[1] 人気爆発…これが噂のスーパーカー！

ランボルギーニ・カウンタック LP400
ランボルギーニ・ブラボ
ランボルギーニ・ミウラ
ランボルギーニ・チータ

ボルシェ 928
フェラーリ 512BB
ランチャ・ストラトス

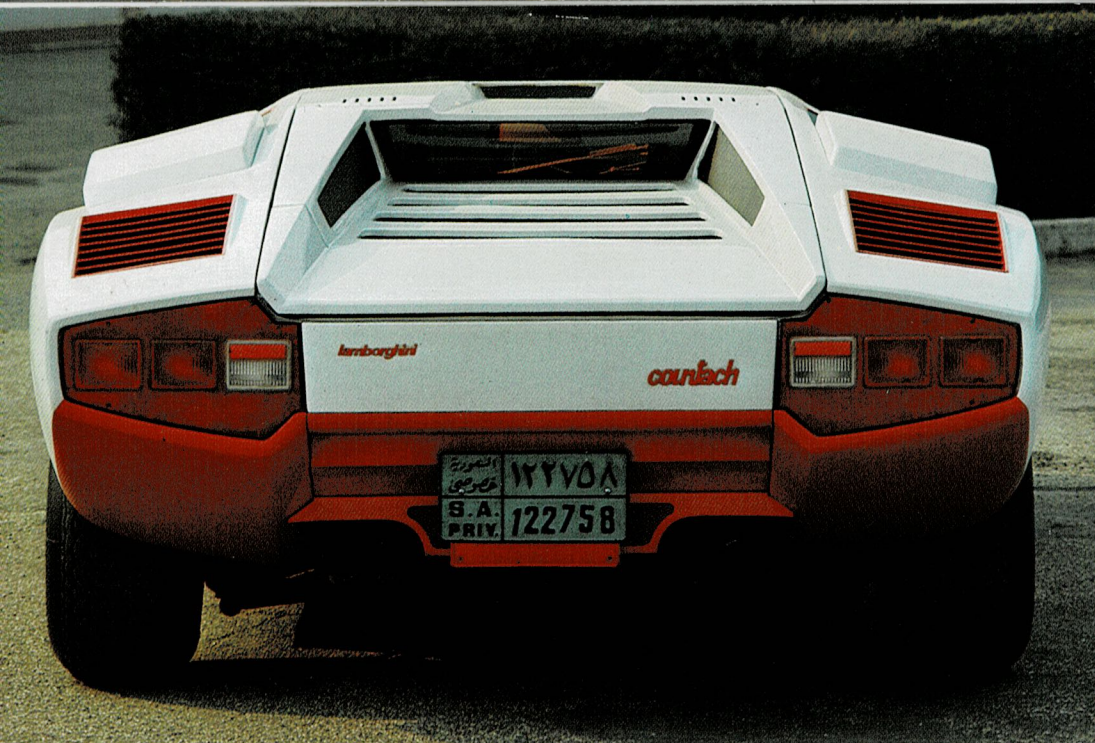
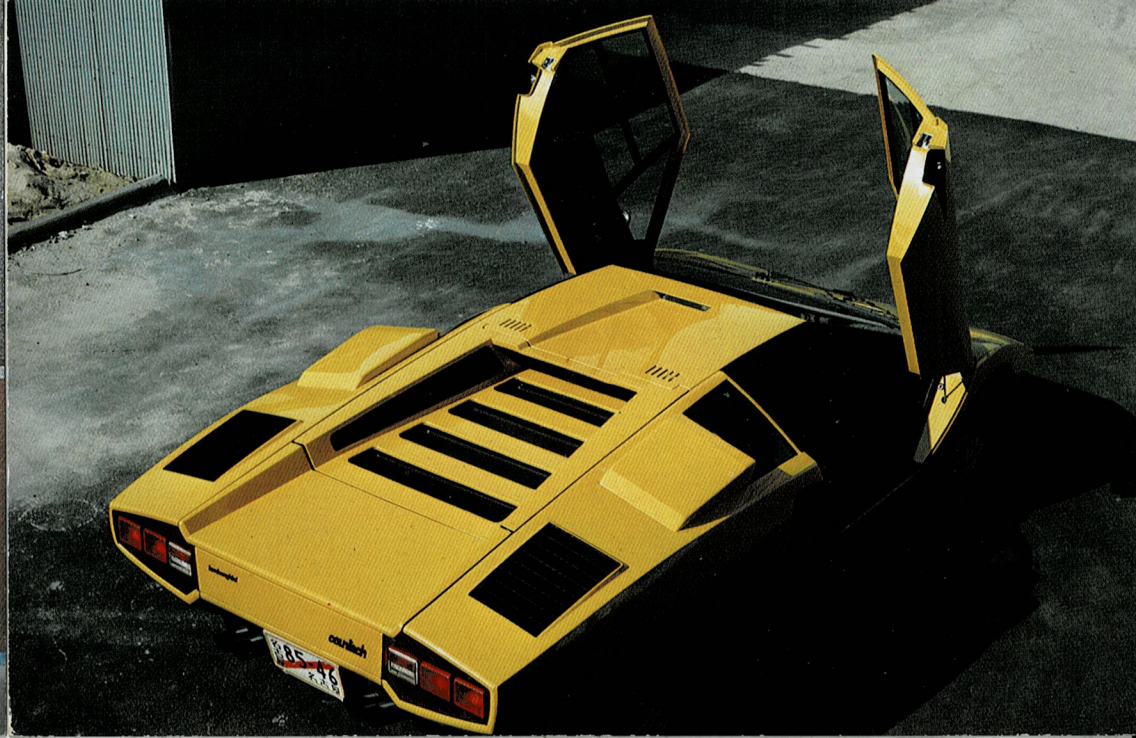
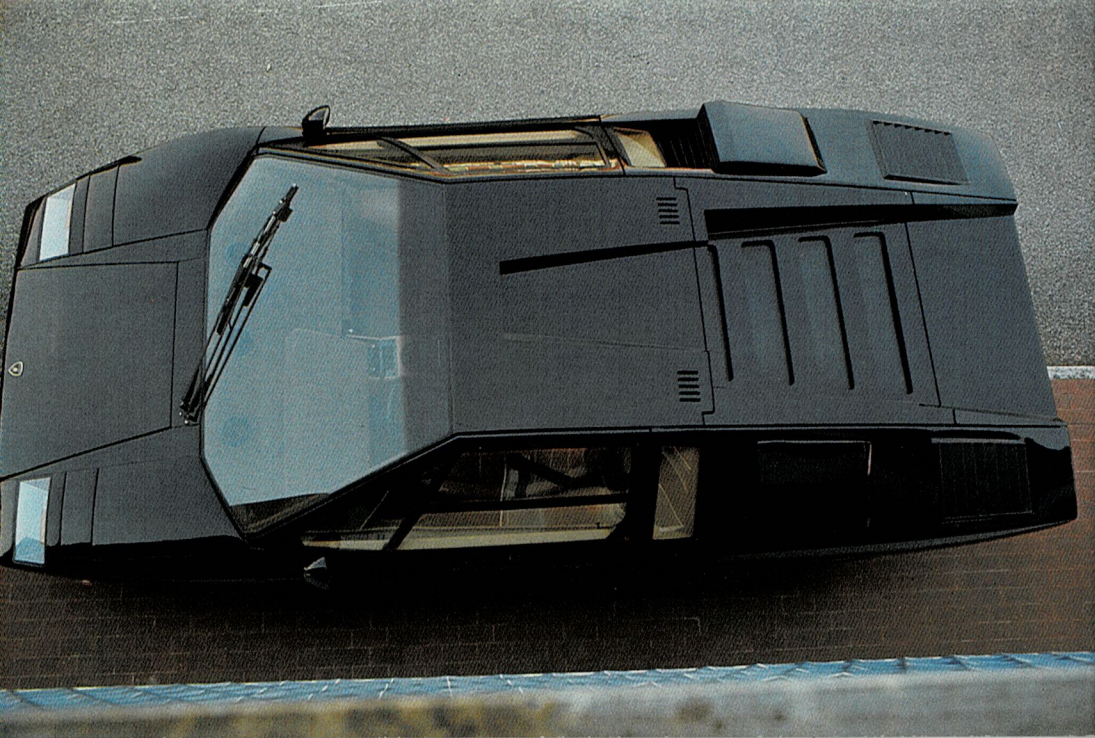
[2] 世界に1台…これが幻のスーパーカー！

オベル GT2
ボンティアック・トランサム・タイプK
ギア コリダー
ギア メガスター
メーリニャック クーベ
ミケロッチェ ランチャ・カレラ
フォード GT70
ベルトーネ アスコット
シボレー・コルベット 2ローター
SRV ボクゾール

ベルトーネ ストラトス
ベルトーネ アルファロメオ・ナバホ
ベルトーネ フィアットX1/9ダララ
ベルトーネ フェラーリ 308GT レインボー
ビニンファリナ フェラーリ 512S
ビニンファリナ フェラーリ 308GTB
ビニンファリナ フェラーリ 400AT
ビニンファリナ アルファロメオ 33
ビニンファリナ アルファロメオ・イーグル
アルファロメオ・アルファード・カイマーノ
アルファロメオ・イグアナ
アウディ 80 アッソ
ロータス GS
ビエール・カルダグ スパッロ

[3] 日本でもつくられていた幻のプロトタイプ！

TOYOTA EX7
TOYOTA EXIII
TOYOTA EXI
TOYOTA F101
NISSAN 126X
NISSAN 216X
NISSAN 270X
NISSAN AD1
ISUZU MX1600
MAZDA ロータリー RX500



Lamborghini Countach LP400



ランボルギーニ・カウンタックLP400(イタリア)

立志伝中の人物、フェルッチョ・ランボルギーニは、フェラーリのオーナーとなったが、どうもそのフェラーリが気に入らなかったらしい。エンツォ・フェラーリに会見を申し込んだが、あっさりのことわれたのがその原因であった。

「よし、それならオレがフェラーリ以上の車を作ってやる！」と叫んで、できたのがランボルギーニであるという。

【スーパーカー豆事典】 ニュートラル・ステアー：コーナーでねらったラインをその通り正確に走る傾向。スポーツカーのように重心が低く足回りタイヤがしっかりしていなければ容易に得られない。

Lamborghini Countach LP400



ランボルギーニ・カウンタックLP400(イタリア)

ランボルギーニを一口でいうならば“世界1速いロードカー”である。

速さは確かに車の目的の一つであるが、いろいろな道路状況からいって、即それがいい車だとはかぎらない。ランボルギーニは単に道具としての車より、快楽的な欲望を追求した車といえるだろう。

エンジンはV12・DOHC。最高速度300km/h。

【スーパーカー豆事典】 アンダー・ステアー：コーナーでねらったラインより外側に車がふくらんでいくステアリング傾向で、“弱いアンダー”が最も一般ドライバーには適している。

Lamborghini Countach LP400



ランボルギーニ・カウンタックLP400(イタリア)

ランボルギーニとフェラーリは“宿命的なライバル”であった。(③参照) ランボルギーニはフェラーリ以上の車を作るため、フェラーリの工場の目と鼻の先、ボローニ近郊サンタ・アガタに大工場を建設した。それはフェラーリの工場から熟練工を引き抜くためであったという。そしてついに、執念？がみのって、すべての点でフェラーリを追い抜くことができたのである。

【スーパーカー豆事典】 タックイン：コーナー途中でアクセルを急にゆるめた時に、車の方向が急に内側に向く傾向。あまり強いと危険だがベテランドライバーはこれを利用してタイムをかせぐ。

Lamborghini Countach LP400

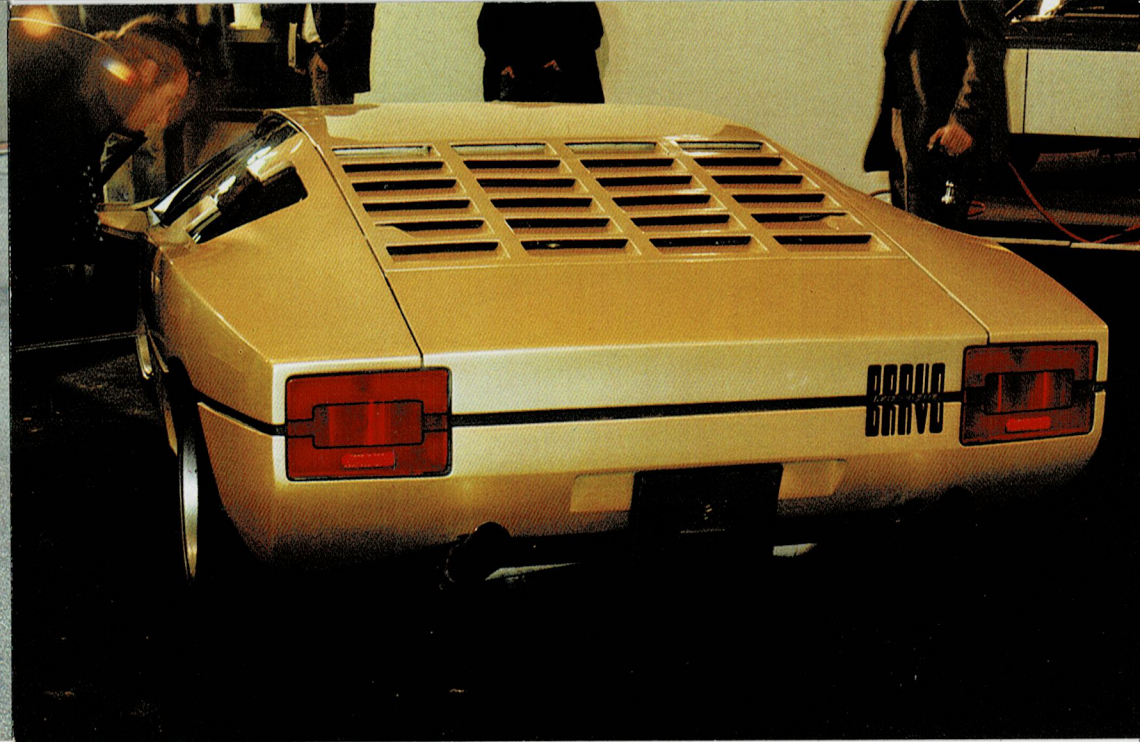
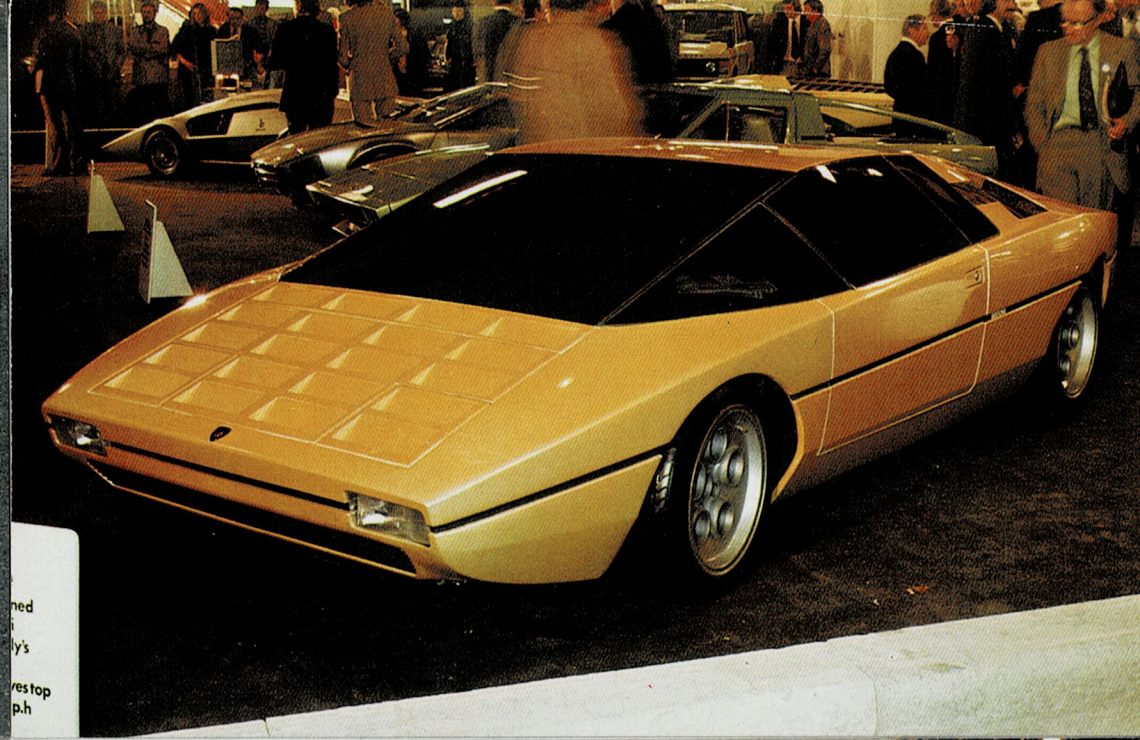


ランボルギーニ・カウンタックLP400(イタリア)

ランボルギーニは一度もレースをしたことがない。フェラーリやマセラッティなどが、レースでの経験をもとに、市販スポーツカーを生み出すといういきかたからすると、まさに幻のスーパーカーの名をほしいままにするにふさわしい車といえよう。

フェルッチョ・ランボルギーニという男は、一代にして大企業を築き上げた、立志伝中の人物であることから考え、なるほどと思える。

【スーパーカー豆事典】 オーバー・ステアー：コーナーでねらったラインより車が内側に向く傾向すなわちリアタイヤのグリップが弱まり外側に流れる。ステアリングで調整しなければならない。



Lamborghini MIURA

ランボルギーニ・ミウラ(イタリア)



V12エンジンをミッドシップに横置きに配置、チューニングの都合は高く、ウェーバーの40IDL3Cのキャブを4個つけている。

出力370ps/7,700rpm。ボディはセミー一体構造、全輪コイル独立懸架。ホイールベース2,500mm、全長4,390mm、車重1,180kg、最高速度280km/h、0~100km/h=4.5秒。

残念ながら現在は生産が中止されている。

〔スーパーカー豆事典〕 マクファーソン・ストラット：マクファーソン氏の考案したサスペンションの型式でコイルスプリングとテレスコピックタイプのショックアブソーバーを一体にした型式。

オーナー T・KAMAIKE

Lamborghini MIURA

ランボルギーニ・ミウラ(イタリア)



ベルトーネ製の空力学的な低いボディをつけた2座クーペ。

「ミウラP400SV」もつくられている。Vはベローチェ、SVはスーパー・ファストの意味。

ランボルギーニの創業者フェリッチョ・ランボルギーニは、トラクター、オイル・バーナー、ヒーターなどで財産を築き、道楽が本業になり1963年からスポーツカーの製造にのりだした。

〔スーパーカー豆事典〕 ウィッシュボーン：サスペンションの型式で上下にA型やI型のアームを組みスプリングやショックアブソーバーを支持するタイプ。最も頑丈な構造だ。

Lamborghini BRAVO

ランボルギーニ・ブラボー(イタリア)



ブラボーは車としての完成品をめざしたというより、ベルトーネのデザイン的な未来への提案として見るべきだろう。

その意味では“車らしくない車”つまり、トランスポーター的なスタイルといえよう。

“車らしさ”を大切にする、ジウジアーロの作品とは対象的である。

ベースはランボルギーニ・カウンタック。

〔スーパーカー豆事典〕 4輪ドリフト走行：コーナリング中、4輪を進行方向横にスライドさせて高速でコーナーをぬけるテクニック。

Lamborghini BRAVO

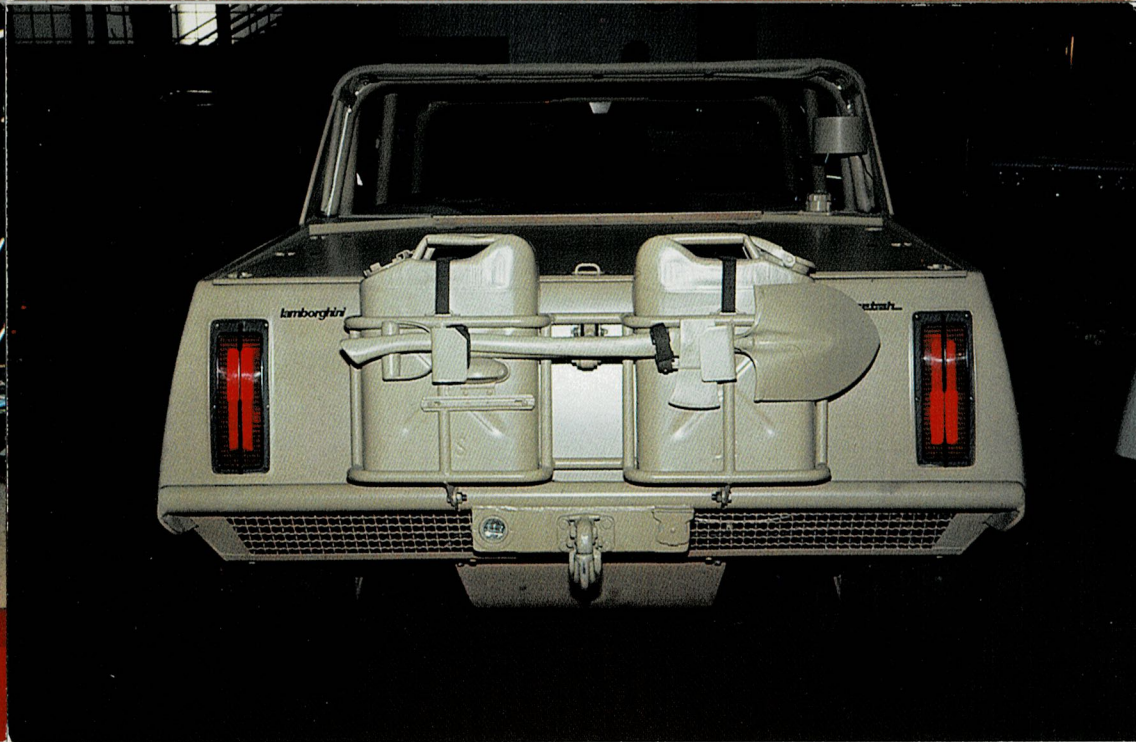
ランボルギーニ・ブラボー(イタリア)



ランボルギーニ・カウンタックよりシンプルにまとめ、フロント・フェンダーからサイド・ウインド、そしてリア・クォーターパネルにつらなる大胆なねじりが美しい。

後から見るウインドなどは建築的な美しさを見せている。他のスーパーカーがジェット機的なスタイリングに向っているなか、異色の車といえる。

〔スーパーカー豆事典〕 スタビライザー：アンチロールバーともいう。ねじれ効果をもち特にサスペンションのロールを押えるために役立つ。左右タイヤが互いに影響をおよぼさないようにする。



Porsche 928

ポルシェ・928 (西ドイツ)



世界中が待ちこがれていた 928 がついにベールをぬいだ。77年 3 月発表のニューモデル。

4.5リッター、240ps、水冷 V 8 エンジン、2 + 2 G T ・ クーペ。
W B 2, 500mm、全長 4470mm、全幅 1, 836mm、ボディはアルミ製、車重 1, 450kg。トルクチューブでエンジンとむすばれた 5 段ギアボックス / ファイナル・ユニットで後輪駆動。

〔スーパーカー豆事典〕 2 系統式ブレーキ：ブレーキの油圧系統を前後に分割した方式。前後どちらかの油圧系統が破れても片方がきき安全が保たれる。今日ほとんどのスポーツカーがこの方式。

11

Lamborghini Cheetah

ランボルギーニ・チータ



イタリアン・スーパーカーの雄ランボルギーニが、がらりと趣をかえて、まるで軍用車のような、スーパーバギーをつくりあげた。
4 輪駆動で、どんな荒地でも、ぐんぐん飛ばす。最高速度 167km/h、まさにスーパーバギーだ。

軸距 3, 000mm、全長 4, 320mm、全高 1, 580mm、全幅 1, 880mm。

エンジン、クライスラー V8、5.9リッター、183~290馬力。

〔スーパーカー豆事典〕 ディスクブレーキ：ブレーキ方式。ディスク(血)型の円盤をまわしてそれをパッドで両側からはさみ込んで止める方式。大きい円盤で冷却効果が高く高速では特に信頼性が高い。

9

Porsche 928

ポルシェ・928 (西ドイツ)



ニューモデルは 924 をデラックス化したものと考えてよい。日本での価格は 1, 500 万より多少安くなるようす。輸入は 78 年頃である。

エンジン設計の特徴は、徹底した軽量化、そしてしずかな作動にある。エンジンの軽量化のために、ほとんど軽金属でできている。

排気量 4, 474cc、最大トルク 37mkp/3, 600rpm、エンジン単体重量 265kg、圧縮比 8.5 : 1 と低い。

〔スーパーカー豆事典〕 リーフスプリング：自動車はもちろん馬車時代から使われてきた板バネ式のスプリング。MG などリアーに使っている。

12

Lamborghini Cheetah

ランボルギーニ・チータ (イタリア)



ボディはチューブラ・スチール、シャーシーはグラスファイバー製。
エンジンはクライスラーの V 8 ミッドエンジン。前後ともダブル・ウィッシュボーン、前輪独立懸架。

ボディのエンジン・ルームのふたはミウラと同じ開きかたをする。
巨大なタイヤは砂地でも 140km/h は走れる。大きさ、スピードからみて、オフ・ロードカーのキングといえるだろう。

〔スーパーカー豆事典〕 ドラムブレーキ：車輪に半円筒型(ドラム)がつけられたブレーキ方式。ドラム内のシューが内側から開きドラムの回転を押える方式。最も一般的なブレーキ方式。

10



Opel GT2

オペル・GT2(西ドイツ)



15

オペルのデザイン・スタジオがつくったGT2。

GT、ディプロマートCD、OSVなど、一連のデザインの総決算ともいえるもの。

エンジンは、アスコナ/マンタ・シリーズの1.9ℓ。燃料噴射式。105PS。

〔スーパーカー豆事典〕 RR(アール・アール)：後にエンジンを搭載して後のタイヤを駆動する方式。代表的なのはボルシェ930ターボ、フォルクスワーゲンカブと虫など。

Ferrari 512BB

フェラーリ・512BB(イタリア)



16

通称ベベ、ベルリネッタ・ボクサーの略。フェラーリのレーシング用水平対向V12をミッドシップに搭載。ホイールベース2,500mm、全長4,400mm、全幅1,800mm、全高1,120mm、車重1,400kg。スピードは3速で173km/h、4速で225km/h、トップで302km/h。出力380ps/7,500rpm。5速フルシンクロ・ミッションがつく、パイプ・フレームをもち全輪ウィッシュボーン/コイル独立懸架。

〔スーパーカー豆事典〕 ミッドシップ：エンジンをリアアクスル直前に配置する方式。ミウラやウラコ、ロータス・エスプリなどスポーツカーに流行している。君も車名をあげてみよう。

Pontiac Trans-Am Type-k

ポンティアック トランザム タイプK(アメリカ)



14

1977年の2月シカゴのショーでデビューする。リヤのサイド・ウィンドが、ガル・ウィング風に開閉。

インテリア、エクステリアともにメタリック仕上げされている。

残念ながら、ショーのために作られたので、実際に走っていることは見ることができない。

エンジンはV8、6,558cc、200馬力/4,000rpm、44.9kgm/2,400rpm。

〔スーパーカー豆事典〕 トランザアクスル：エンジンは前に搭載して普通は直後にクラッチ、ギアボックスの順に置くが、この方式ではギアボックスをデフといっしょに後に置く。アルフェッツァやボルシェ924。重量配分に優れる。

Lancia Stratos

ランチャ・ストラトス(イタリア)

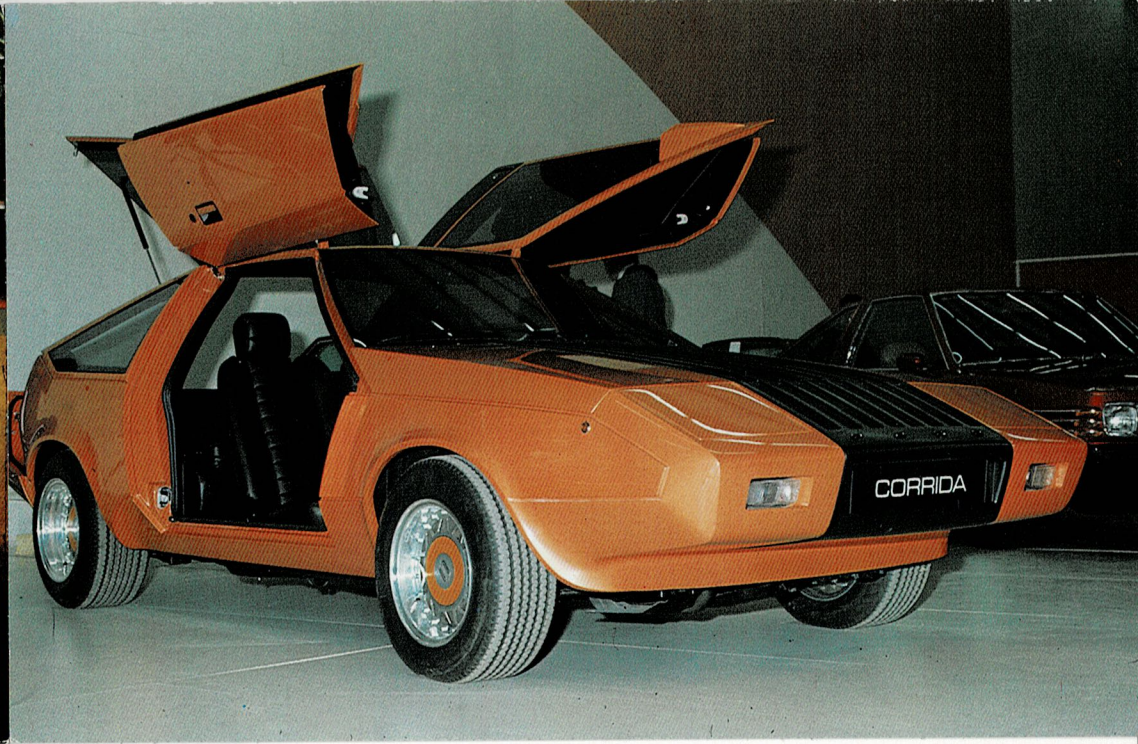
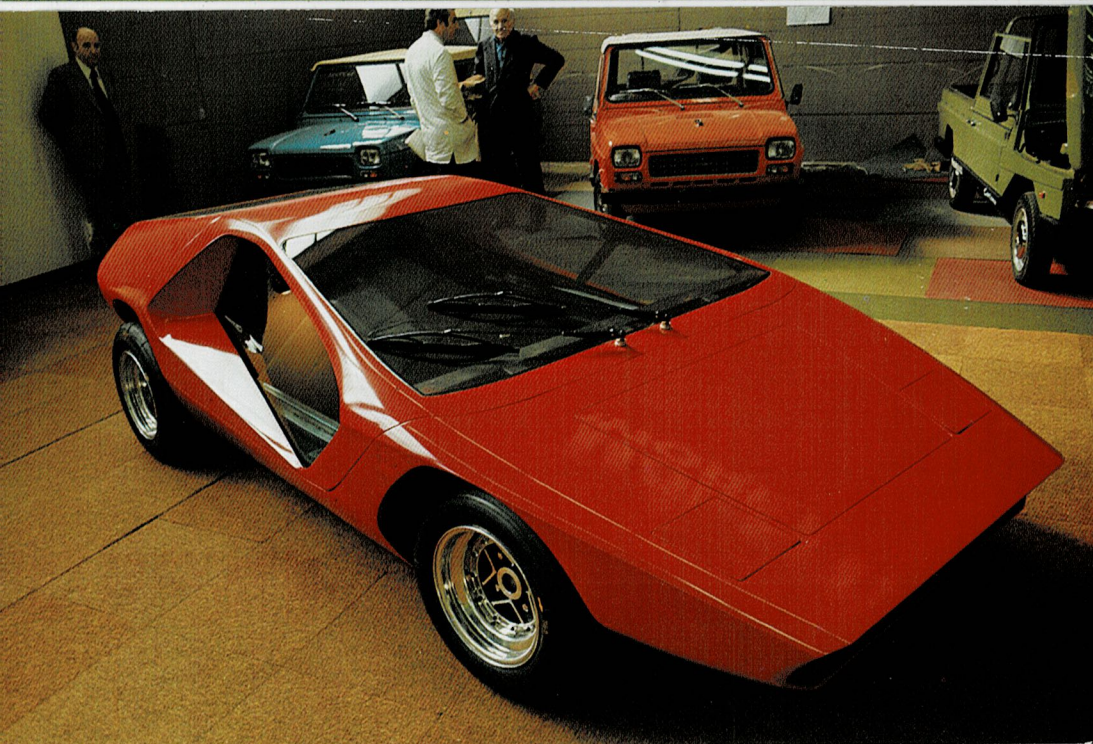
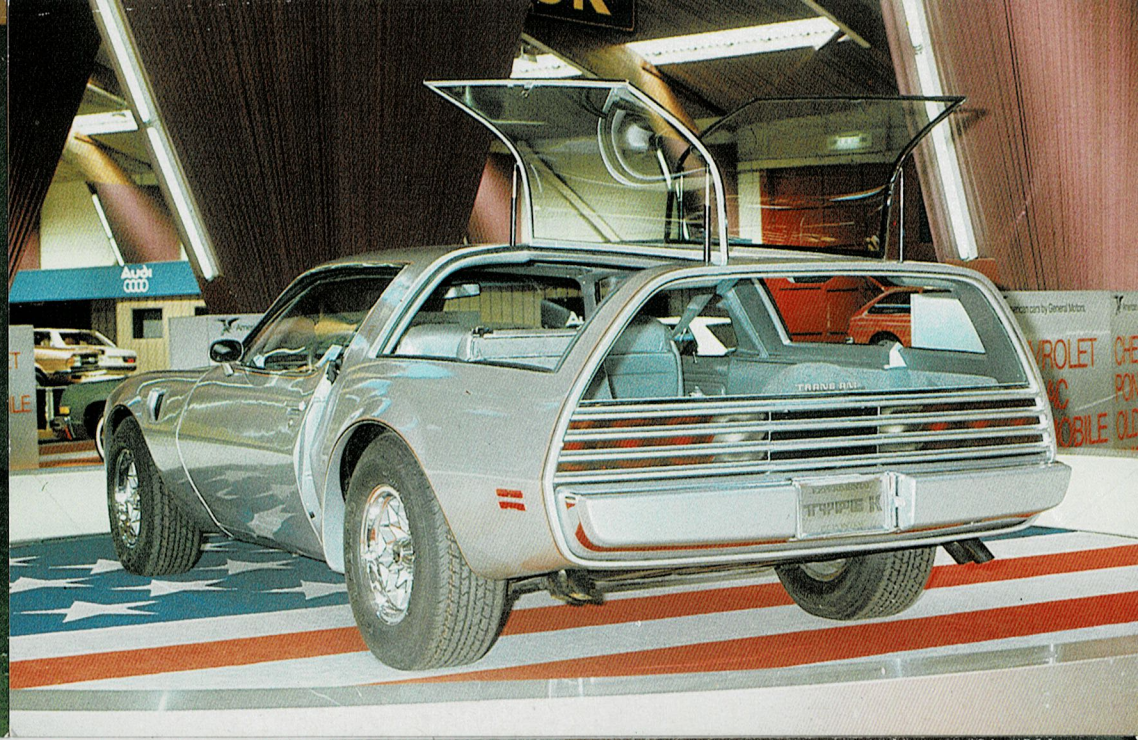
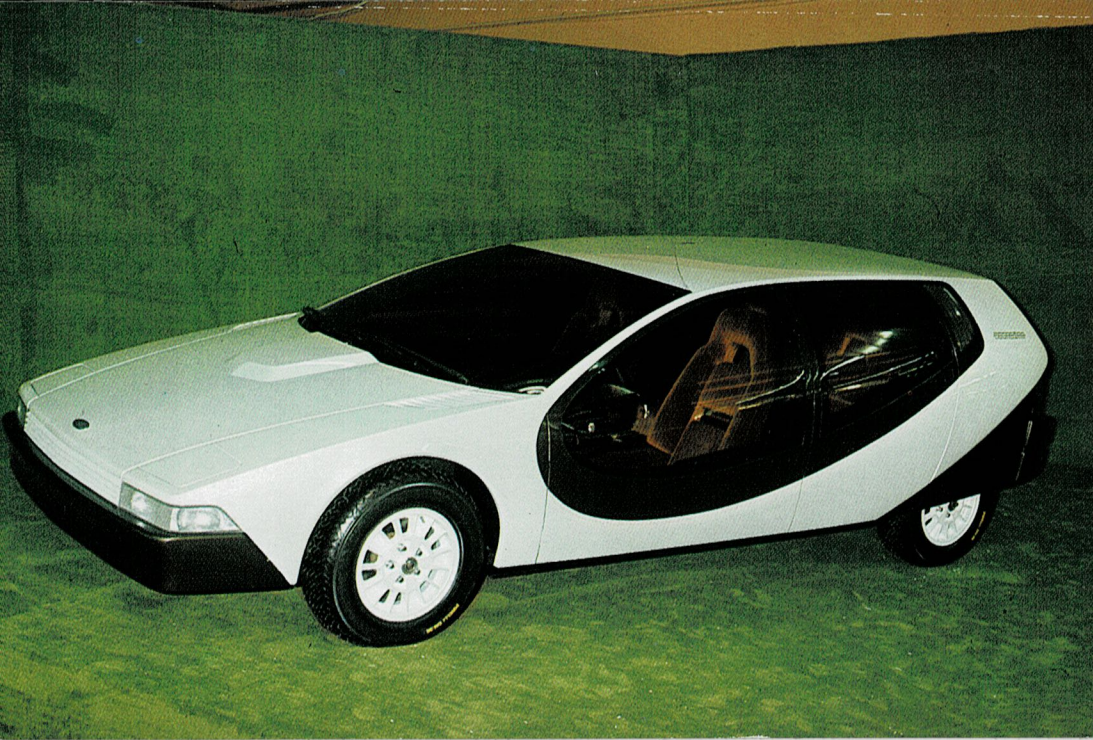


14

ベルトーネのアイデアカーとして出発し、のちにレース用プロトタイプ、そして生産となった。エンジンはフェラーリ・ディノV6 DOHC、2,418ccを横置きミッドシップに配置。

出力190ps/7,000rpm。ボディは一体構造、前後ともウィッシュボーン/コイル独立懸架、全輪にディスク・ブレーキ。全長3,710mm、車重870kg、2+2クーペ、最高速度230km/h。

〔スーパーカー豆事典〕 FR(エフ・アール)：前にエンジンを搭載して後のタイヤを駆動する最も一般的な方式。MG、ジャガー、アストンマーチンなど。君もたくさん知っているはずだ。



Ghia Ford Megaster

ギア フォード・メガスター (イギリス)



高級サルーン・グラナダをベースにギアが未来的なボディをのせた。スーパーカーに見えるが、じつは明日のファミリーカーをデザインしたもの。

4ドアでガラスは開かない、室内は完全エアコンシステム。

軸距2,770mm、全長4,404mm、全幅1,864mm、全高1,245mm。エンジンはV6気筒、2,993cc、138馬力/5,000rpm、24.0kgm/3,000rpm。

〔スーパーカー豆事典〕 DOHC(ダブルオーバーヘッドカム)：エンジンには排気と吸気バルブがあるが、それを別々に一本ずつのカムシャフトで駆動する方式。高回転でもバルブ作動が正確なスポーツカーには適している。

メーリニャック・クーペ

ショーのために出品されたものでくわしいデーターはない。自動車ショーといっても、パリのファッション・ショーと同じで、出品されたものが実用化できるということではない。こういったケースの場合、ボディだけ樹脂で成形され、中にエンジンが入ってない場合がある。ボンネットがあけられていない、または、あけないものはそのようなものと考えてよい。

〔スーパーカー豆事典〕 OHC(オーバーヘッドカム)：カムシャフトをエンジンのいちばん上に置いて直接吸排気バルブを作動する方式。正確なバルブ作動を行なえ調整も楽だ。

Pontiac Trans-Am Type-K

ポンティアック トランザム タイプK (アメリカ)



シカゴのショーは、ディーラーが色々な車をあつめて行なわれるショーで、メーカー側はあまり力を入れない。単に人集めのためのショーと考えられる。しかし、このタイプKは、その中にあって一番人がむらかった車である。1970年にフィアードにおいてステーションワゴンの生産計画があったが中止された。1980年代にはこのようなワゴンが戦列に加わるものと思われる。

〔スーパーカー豆事典〕 チューニング：スポーツカーのエンジンは一般車のエンジンをチューニングしたものが多い。すなわち圧縮比を上げたり、キャブレターの数を増し高回転型にしたり出力をアップすること。

Ghia Corrida

ギア コリダ (アメリカ)

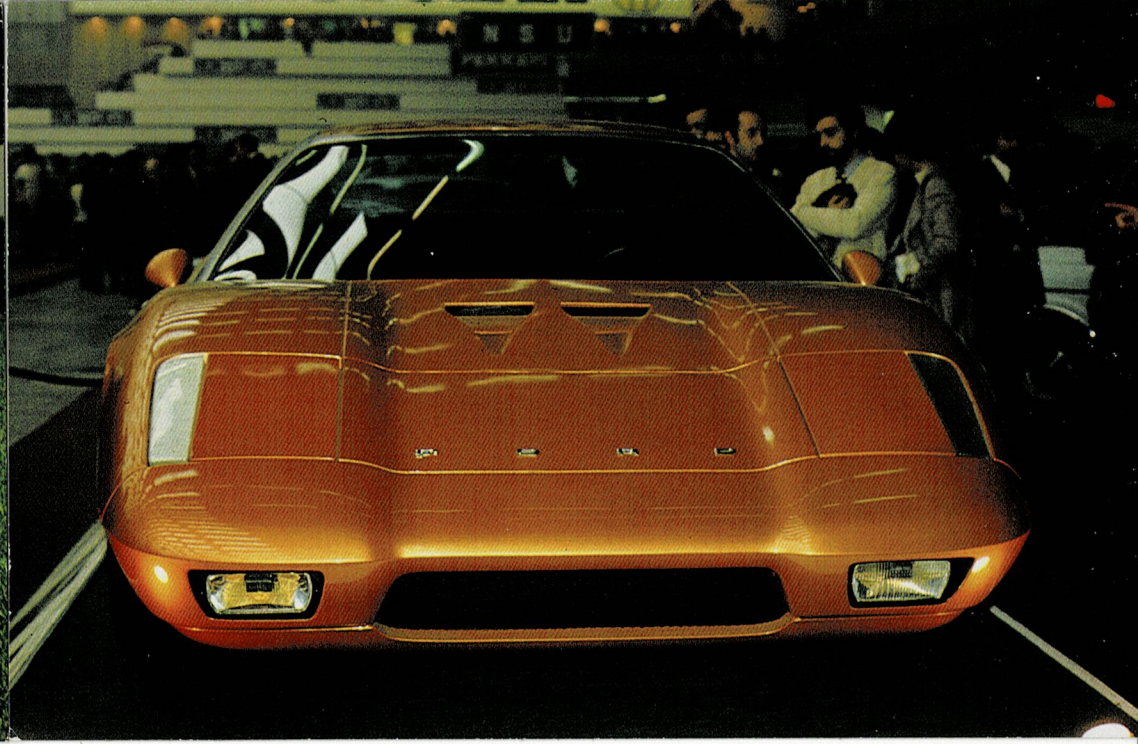
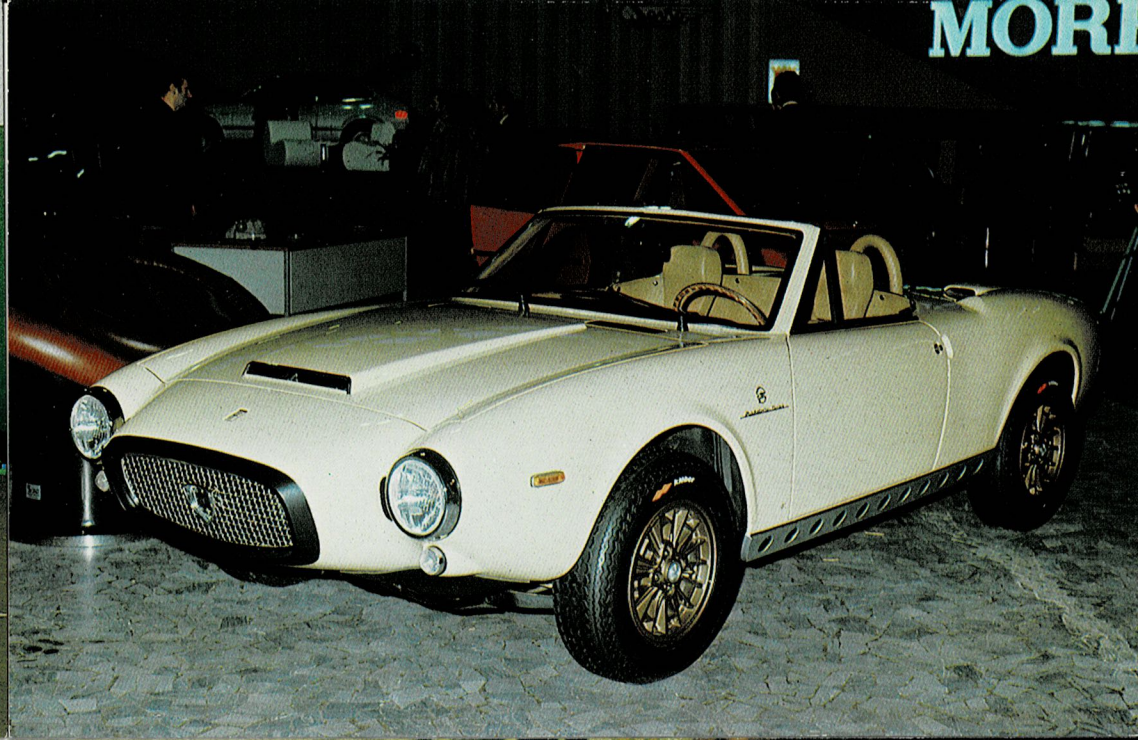


アメリカの大手、フォードの資本に入ったギアの最新作、そのためか、かなりアメリカを意識してつくられている。

フィエスタSをベースしたFF小型車。

ガルウイング・タイプのドアは片手で楽に開閉でき、後部の荷台にはヒンジのついたリヤの第3ドアで、荷物スペースを広くとれる。エンジンはフィエスタ5の4気筒、1,117cc、53ps。

〔スーパーカー豆事典〕 ターボ：エンジンの排気を利用してタービンを回し、その力でエンジンの空気吸入に圧力を与えてパワーを上げる方式。ボルシェ930ターボもこの方式だ。



Bertone Jaguar Ascot

ベルトーネ ジャガー・アスコット(イギリス)



世界的に知られているジャガーのスポーツモデル。XJSをベースに、イタリアデザイン界の大御所ベルトーネが、ウェッジ型の素晴らしいボディをつくりあげた。

軸距2,590mm、全長4,640mm、全幅1,870mm、全高1,200mm。

エンジン、V-12気筒、5,343cc、燃料噴射式、289馬力/5,500rpm、40.7kgm/3,500rpm。

〔スーパーカー豆事典〕 マットブラック：スポーツカーのスタイリングでアクセントをつけるためにノーズやバンパー、グリルなどをつや消しの黒色で塗装したもの。

20

Lancia Carrera

ミケロツティ ランチャ・カレラ(イタリア)



トリアンフ各車のデザインを手がけていることで有名な、ミケロツティ。最近ではクラシック調のスポーツ・モデルに熱中している。このカレラもその一つ。1954年に出品されたランチャ D24（ピニンファリナのオリジナルデザイン）を思わせる。エレガントな車だ。

〔スーパーカー豆事典〕 スリックタイヤ：レーシングカーに使われる。特殊なゴムで造られる。表面は溝がなく細い穴が開けられているだけ。雨の時には溝を掘り込んで走るのだ。

21

Chevrolet Corvette 2Rotar

シボレー コルベット・2ローター(アメリカ)



2ローターのロータリー・エンジンをミッドシップにおさめたプロトタイプ。GMの副社長W・L・ミッチェルのもと、GM・デザイン・スタッフによってつくられた。

エンジンは2ローターのレシプロ換算4,362cc、自動変速機のほかに4段のマニュアル・ギアボックスも装備でき、3ローター・ユニットエンジンも搭載できる。

〔スーパーカー豆事典〕 ハイドロニューマチック・サスペンション：シトロエンが発明したサスペンション方式で油圧ポンプによりスプリング効果を得るもの。この方式だと車高の調節もできる。

22

Ford GT 70

フォード・GT70(アメリカ)

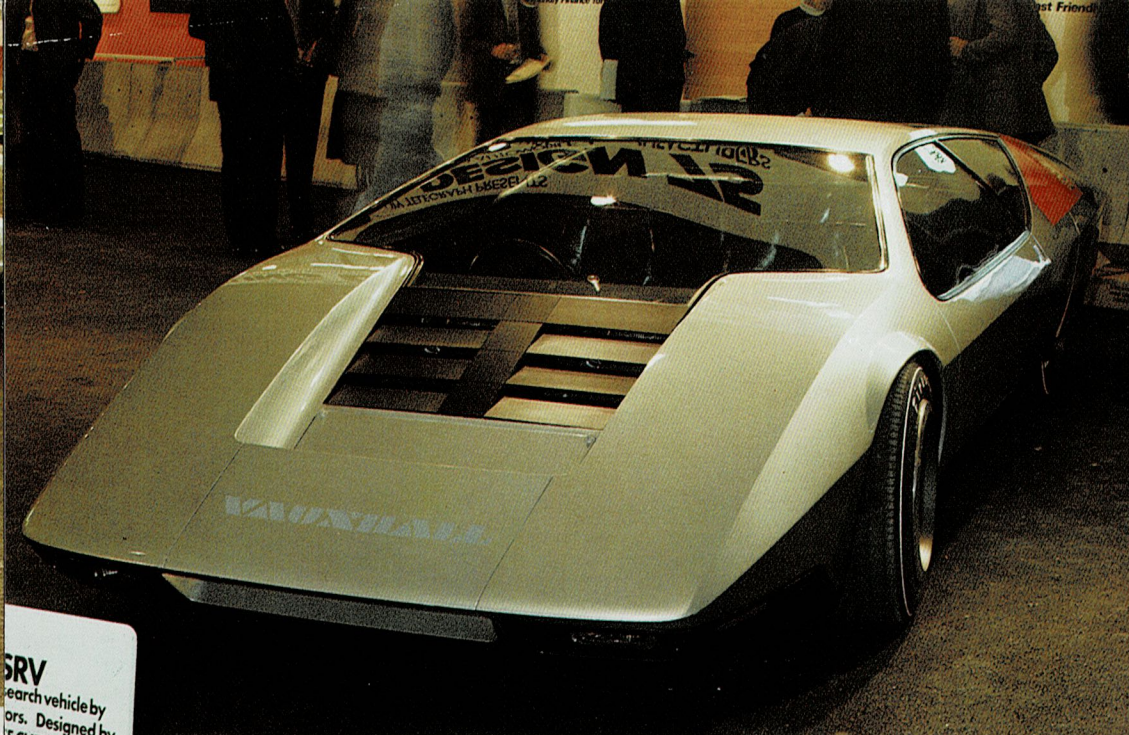
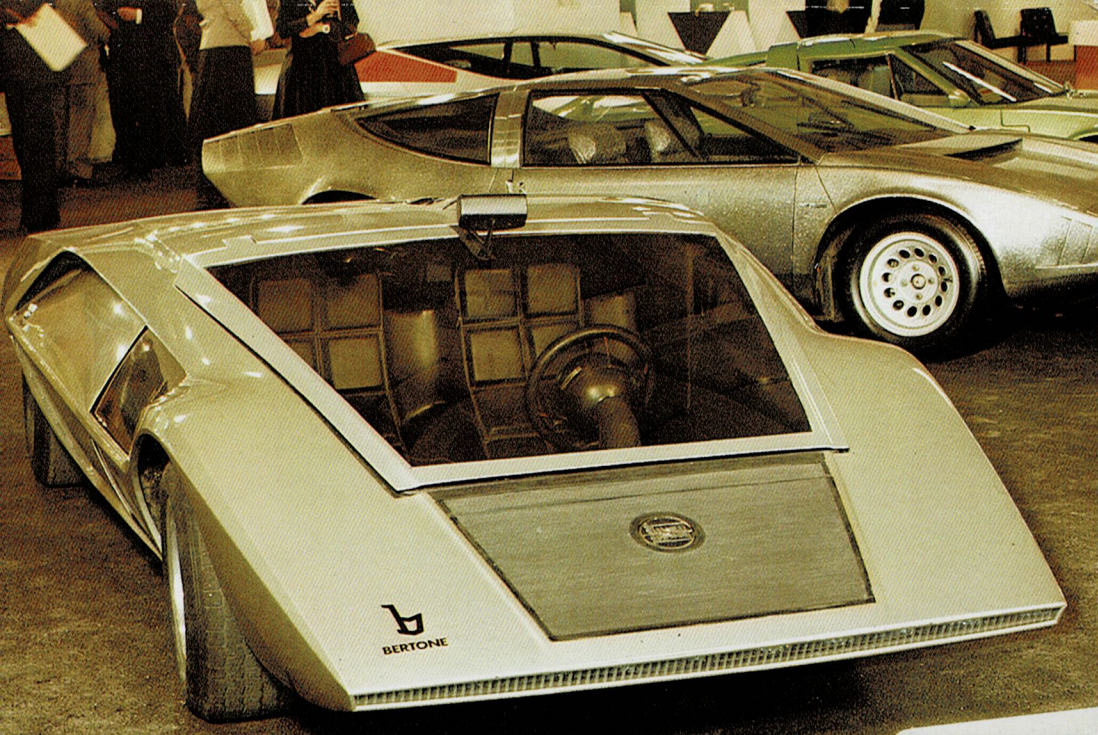


イタリアのトリノにある、フォードのデザイン・スタジオが中心となって作り上げた、スピードラー・モデル。

中心メンバーはイタリア人だが、フロント・ビューあたりに、フォード・カプリの影響が見られるのは、やはりチーフがアメリカ人のせいだろう。インテリアはイギリス・フォード、空力実験はドイツ・フォードが担当。

〔スーパーカー豆事典〕 オーバーフェンダー：標準より太いタイヤをつけるためにフェンダーを大きくふくらませた形式。普通の車ではこのタイプでは公道を走ってはいけない。

23



Stratos

ベルトーネ ストラトス(イタリア)



このような極端なウェッジ・タイプは前にジウジアーロが、マンタで翼型のデザインをしている。

車の真正面から乗るといふ奇抜なアイデアは、まさにショー向きうってつけのプロトタイプといえるだろう。

実用化の段階となると、いろいろと問題はあつた。たとえば、側方視界を極度にせばめられてしまうことである。

【スーパーカー豆事典】 ハロゲン・ヘッドライト：沃素球を使ったヘッドライト。日本の規則では公道では5万カンテラという明るさの制限があるがハロゲンは非常に明るく約8万カンテラ以上だ。

27

Vauxhall SRV

ボグゾール SRV (イギリス)



ボグゾール社が、スタイリングの可能性を求めてつくつた、プロトタイプ。

4シーター、シートメタルのシャーシにグラス・ファイバーのシェル。前後にチューブラー式サブ・フレールを追加し、エンジン／ギアボックス・ユニットはリア・アクスルの前においてある。

前輪はビーム・アクスルをとり、後輪はド・デイオン式。

【スーパーカー豆事典】 2+2(ツウ・プラス・ツウ)：スポーツカーには2人乗りが多いが2+2は後に子供位が乗れるシートが2つつけられる。ボルシェ911やランボルギーニ・ウラッコなどがそれ。

28

Stratos

ベルトーネ ストラトス(イタリア)



車のボディのみをデザインし、製作する独立工房である、ベルトーネとイタル・デザイン(ジウジアーロ主宰)は対照的な関係にある。

ベルトーネは1912年に創立されたのに対し、イタルは1968年の新鋭であること。ベルトーネは1,200名の工員がいて、イタルは気心の知れた者同士でやっている、デザイン・スタジオである点である。

【スーパーカー豆事典】 IRS(アイ・アール・エス)：インデペンデント・リア・サスペンションの略。後輪独立懸架のこと。左右の車輪が互いに影響されずに路面をうまく保持するので優れたコーナリングを得られる。

29

Stratos

ベルトーネ ストラトス(イタリア)



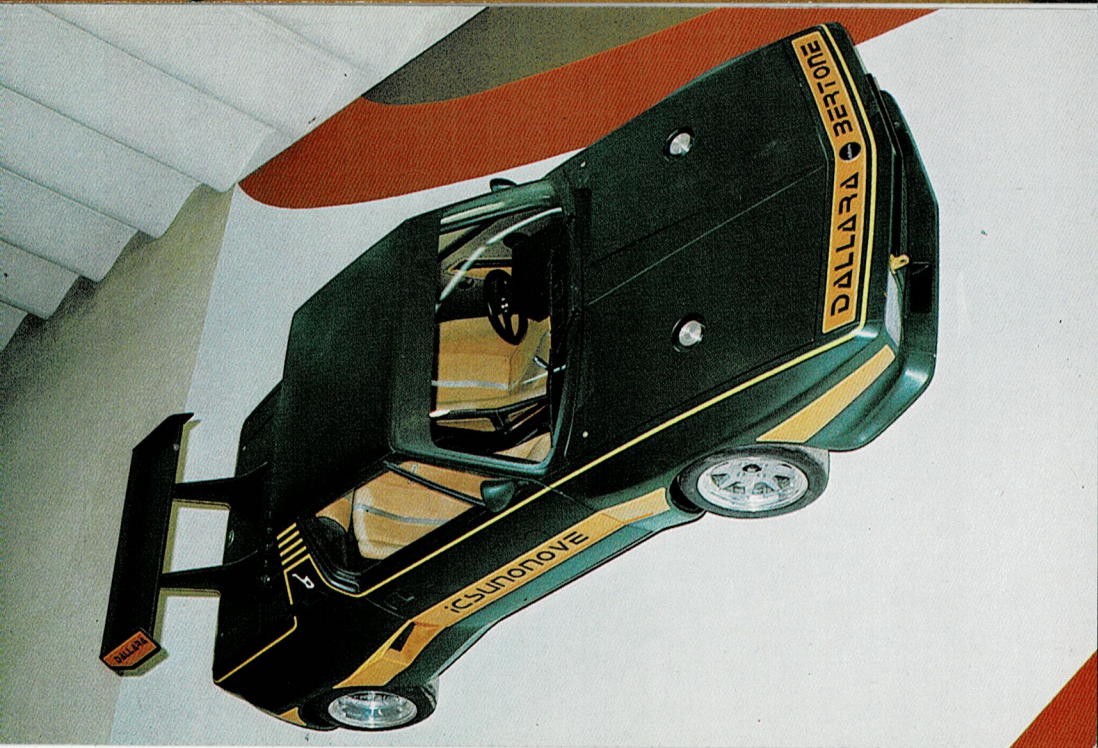
70年のトリノショーで世界中を驚かせた、ベルトーネの力作。アルファ33・カラボをさらに追求した大胆なウェッジ。

パワーユニットはFFのランチャ・フルビアHF1.6。シートは極端に前にあるため、横からの出入りは不可能。ウインドシールドをはね上げて出入りする。

「今世紀最大の嘘」と至言する人もいる。

【スーパーカー豆事典】 ボクサー・エンジン：V8エンジンの変形で水平対向すなわちピストンが左右から向き合つて回転する。非常に平らにエンジンがでかあがるのでミッドシップに適する。

30



Fiat X 1/9 Dallara

ベルトーネ フィアット X1/9・ダララ (イタリア)



メーカー^{せ かい せん しゅ けん}世界選手権シリーズ^{し ゅ つ じ ゅ う}出場をめざしてつくられた、ベルトーネ^{り き さ く}の力作。

スタイリングは低い車高^{ひ く し ょ こ う}、フレアーのついたホイール・アーチ、リヤのエアロ・フォイル・ウィングなどが大きな特徴^{お お と く ち ょ う}。

特製^{と く せい}の13インチ・ホイールには、ピレリ・チンツラート“P7”のウルトラ・ロープロフィール・タイヤ。

〔スーパーカー豆事典〕 ウェッジシェイプ：車⁽⁴⁾のスタイリング用語。いわゆるくさび型で前が低く後へだんだん高くなっている形。スポーツカーはこの形が多くフロントガラスの傾斜角度もきつい。

Fiat X 1/9 Dallara

ベルトーネ フィアット X1/9・ダララ (イタリア)



ダララとはこの設計にあたった技術者の名前。

エンジンは、16バルブ、フューエル・インジェクション・タイプに、強力なチューニングをほどこし、192ps/9,700rpmに達する。インテリアには、F1ドライバー用スーツと同じ、FPT繊維を使用。

ベースはフィアットX1/9。

〔スーパーカー豆事典〕 エアロダイナミクス：空気力学によって高速で空気抵抗の少ない形に設計する。たいていは特別な風洞実験室に入れてあらゆる方向から風を当てて最も空気抵抗の少ないボディに仕上げる。

Navajo Alfa Romeo 33

ベルトーネ ナバホ・アルファ・ロメオ33 (イタリア)



直線と平面で構成されたウェッジ型^{が た}、ベルトーネデザイン。

フロント・スポイラーはスピードに応じて自動的に調整ができるようになっている。もちろん手動切りかえも可能。

リヤスポイラーも可変式。インテリアはデジタル式が大きな特徴となっている。速度と制動距離、馬力/トルクに応じた回転数などがダイヤル上に表示される。

〔スーパーカー豆事典〕 カウリング：レーシングカー用語だが、前後のボデーを軽量化して作っており整備が楽なように取りはずしが容易になっている。一般車では前後ボデー部分のこと。

Navajo Alfa Romeo 33

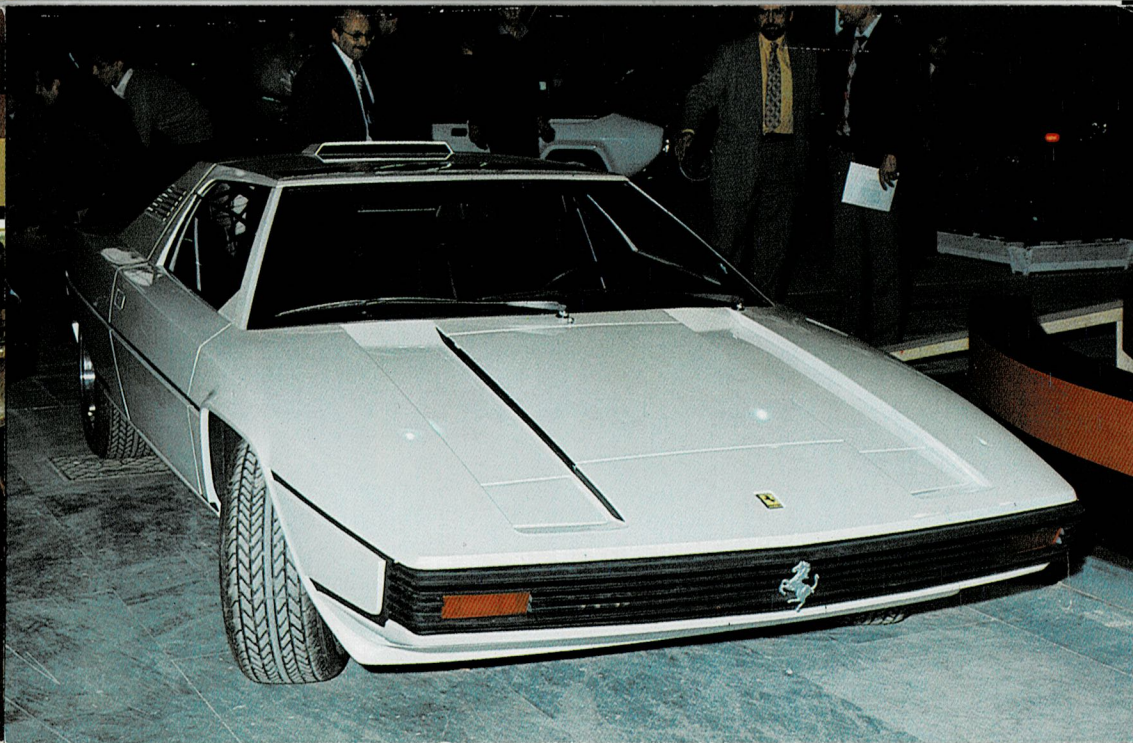
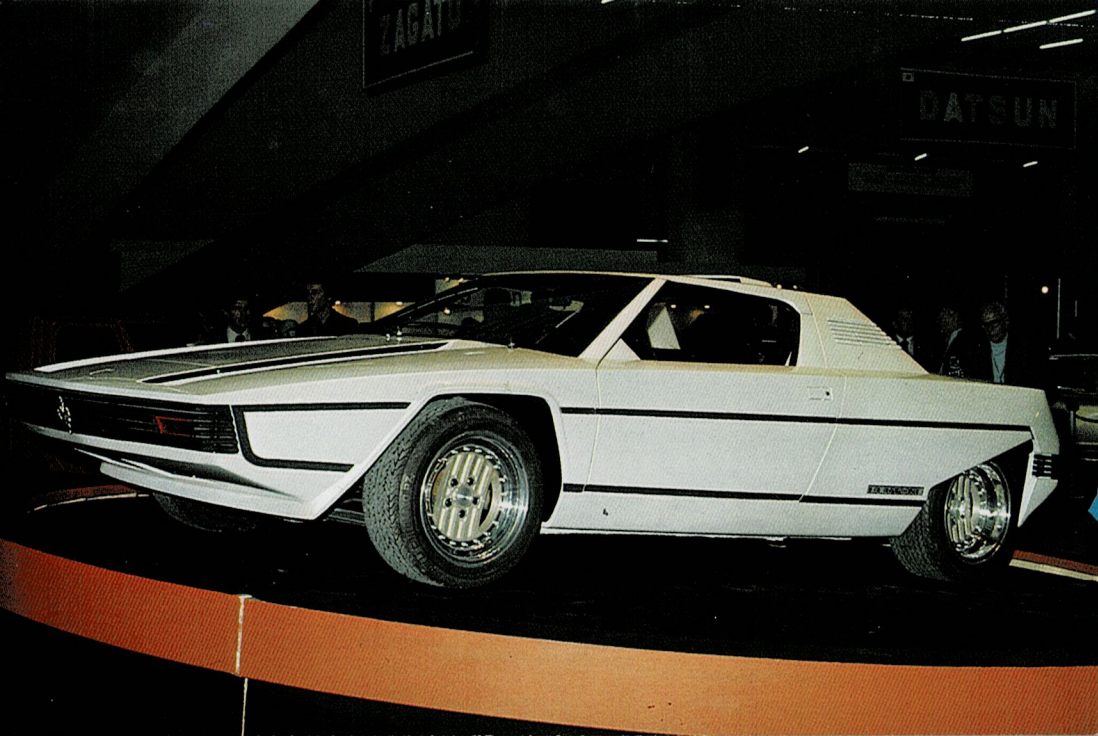
ベルトーネ ナバホ・アルファ・ロメオ33 (イタリア)



ベルトーネはフィアットのために850スパイダー、ディノ・クーペ、アルファ・ロメオのためにモンテリオール、ランボルギーニのためにウラコP250、ハラマ2,400GT・エスパーダ400GT、ミウラP400SVなどのボディを作っている。

ベルトーネをここまで育てたのには、2代目ヌッチオ・ベルトーネの経営手腕による。

〔スーパーカー豆事典〕 ガルウイング・ドア：まるでカモメが羽根を開いたように上に開く方式のドア。ベンツ300SLにはじまりボルシェ917にも使われたね。ランボルギーニ・カウンタックのは少し変型だ。



Ferrari 308GT Rainbow

ベルトーネ フェラーリ308GT・レインボー(イタリア)



ヌッチオ・ベルトーネとイタル・デザインのジョルゲット・ジウ
ジャーロは主従関係にあたる。ヌッチオは2代目として、芸術家と
いうより経営者としての腕が高かった。つまり、若い才気あふれる
デザイナーに権限を与え、自由にデザインをさせたのである。

その若いデザイナーの中に、ジウジャーロがいた。ベルトーネ時
代に彼は、ランボルギーニP400ミウラなど数多くの作品を残してる。

〔スーパーカー豆事典〕 コーダトロンカ：スポーツカーのスタイリング用語で、後部をきよくたんに切り取ったようなスタイル。空気抵抗に効果があったが1960年代のスポーツカーに多い。

55

Fiat X 1/9 Dallara

ベルトーネ フィアット X1/9・ダララ(イタリア)



ダララのベースとなった車で、やはりベルトーネデザインによる
フィアットX1/9の性能については1,290cc、直4エンジンはウェー
バー・キャブで72HP/6,000rpm。ミッドシップ2シーター。

サスペンションは4輪ストラットの独立。ブレーキは4輪ディスク、
トップスピードは170km/h。

シートの上のまうしろにガソリタンクをセットしてある。

〔スーパーカー豆事典〕 カロツツェリア：特別に斬新なボデーを架装するボデー・メーカー。ピニンファリナ、ベルトーネ、イタル・デザイン(ジウジャーロ)、ミケロッチェ、ツォーリング等が代表だ。

56

Ferrari 512S

ピニンファリナ フェラーリ512S(イタリア)



グループ4(公認生産車数25台)出場をねらって、ポルシェ917
と同じく25台生産された。

エンジンはグループ4ギリギリの4,993.5cc、60度V12でポルシェ
917をしのぐ550ps/8,500rpm。

ラジエターは左右分割式で、ボディ中央に置かれている。車重は
840kgで917より重い。

〔スーパーカー豆事典〕 ロールバー：転倒した時にドライバーを守るために鉄パイプで組まれた保護構造。最近ではオープンカーばかりでなく屋根つきでも使用される。

57

Ferrari 308GT Rainbow

ベルトーネ フェラーリ308GT・レインボー(イタリア)

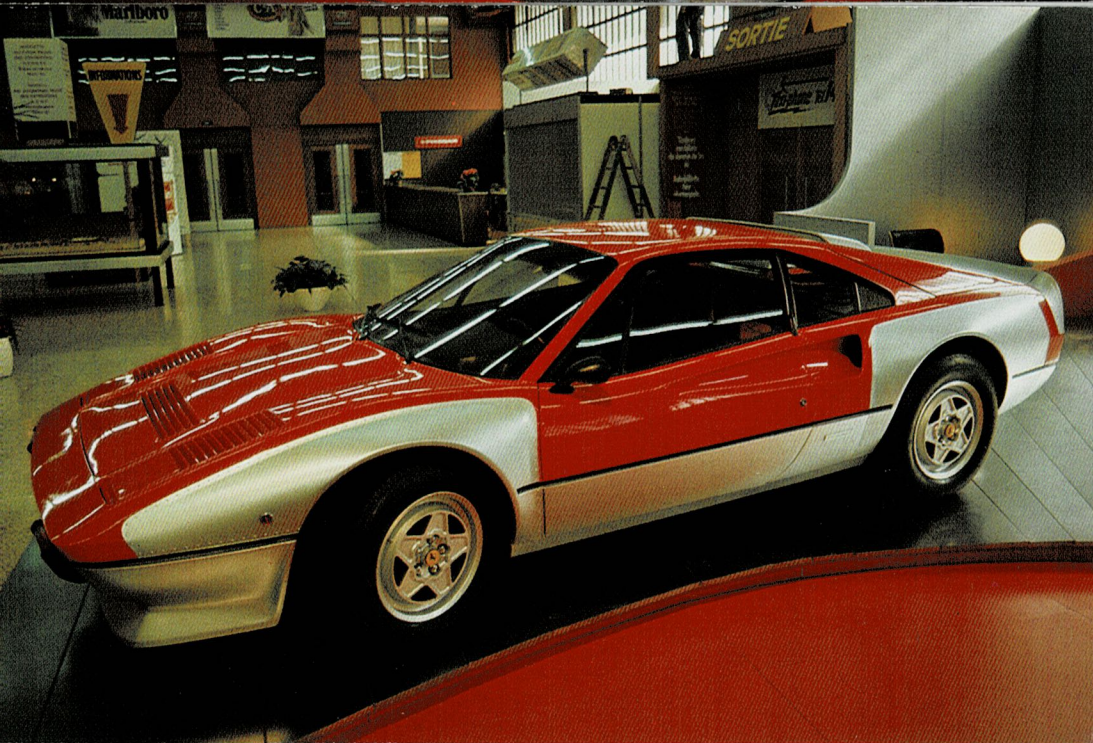


ベルトーネデザイン。ベースはフェラーリ308GT、シャーシを
100mm短かくし、ウェッジ・タイプの直線的ボディをのせた。

ベルトーネはルーフにこるのを得意とするが、レインボーも、ト
ップ・パネルをリア・ピラーの両サイドに、レールにそってずらし
シートの上のまうしろにおさめられるようになっている。それによって後
方視界をさえぎることがないようにするためである。

〔スーパーカー豆事典〕 チューブラー・フレーム：スポーツカー等、軽量化のため細いパイプを力学的に組み合わせたもので、その上にアルミパネルなどでボデーを架装する方式。

58



Ferrari 308GTB

ピニンファリナ フェラーリ・308GTB (イタリア)



石油ショックにおけるガソリンの値上りなどにより、ヨーロッパでは、ガソリンのくわない小型エンジン車が人気をあつめてきている。308GT 4 の2シーター・バージョンである308GTBが、そのラインアップに加わってきた。ボディはピニンファリナのデザイン。

エンジンはV 8 DOHC、2,926cc、出力255ps/7,700rpm、ウェーバーのツインチョーク40DCNのキャブを4コつけている。

〔スーパーカー豆事典〕 ウイング(スポイラー)：羽根の意味だが、スポーツカーが高速で車体が浮き上がらないように空気力学的に計算した羽根をつけ、空気力学的に車の接地性を増す。スポイラーも同じ。

39

Ferrari 512S

ピニンファリナ フェラーリ・512S (イタリア)



風洞実験から生まれデザインは科学の粋とっていいだろう。

極端に低いスタイルから、流れるような曲線は、高速で空気をスムーズにかきわける。

プロトタイプの高性能マシンとして製作されたが、一般道路も走れるようになっている。

2シーター。

〔スーパーカー豆事典〕 タルガトップ：ロールバー構造を取り入れた安全なスポーツカーの造りかた。ボルシェが開発したタルガトップはルーパネルをはずしオープンにするが太いロールバーが残る。

37

Ferrari 308GTB

ピニンファリナ フェラーリ・308GTB (イタリア)



フェラーリのツートンカラーは非常にめずらしい。

308GTBのエアロダイナミックスを改善したプロトタイプ。前後ともダブル・ウィッシュボーン/コイル独立懸架。ブレーキは全輪サーボ・通風ディスク・タイプ。

ホイールベース2,340mm、全長4,230mm、グラスファイバー・ボディはGT 4 より90kg軽い1,090kg。最高速度250km/h。

〔スーパーカー豆事典〕 エア・インターク：スポーツカーは熱量が多いので冷却が特に大切。すなわち冷却用の空気を導入する穴で、エンジンはもとよりブレーキ用などいろいろ考えられる。

40

Ferrari 512S

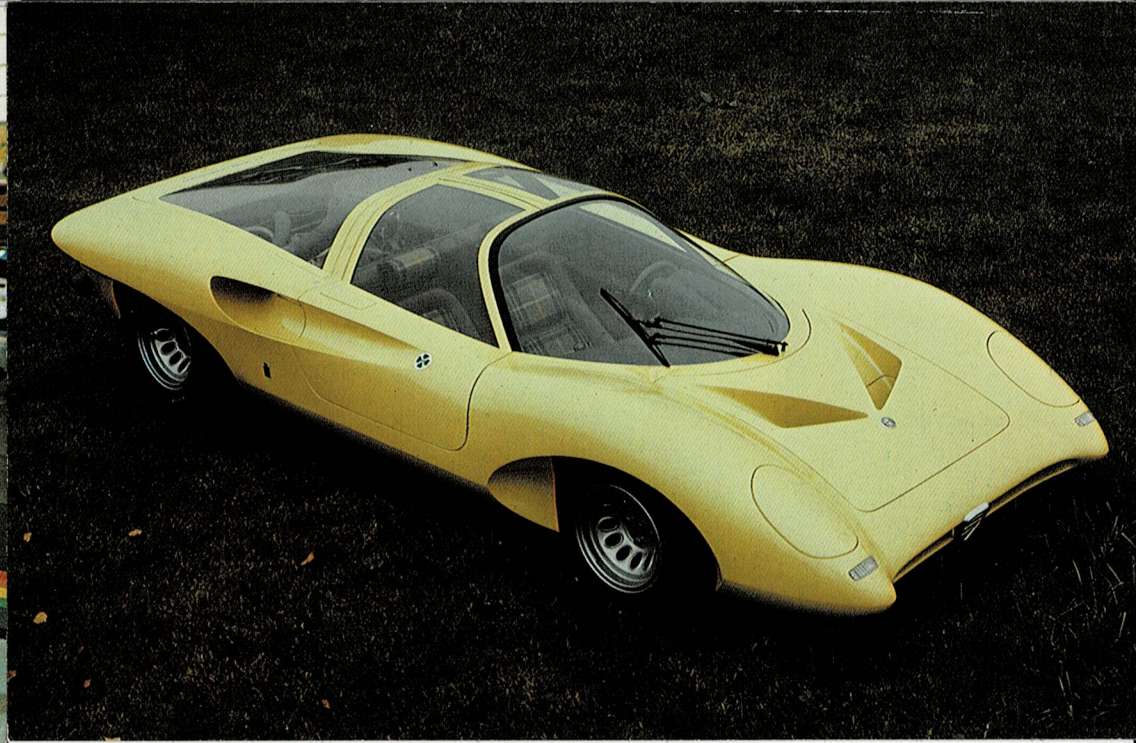
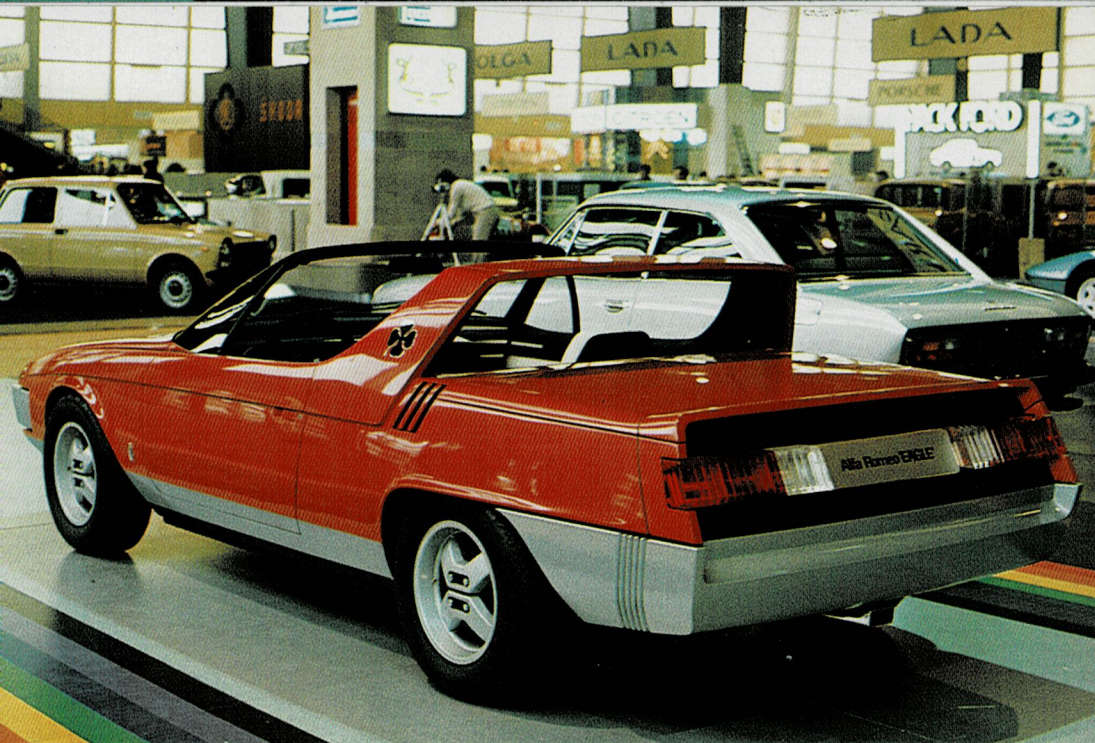
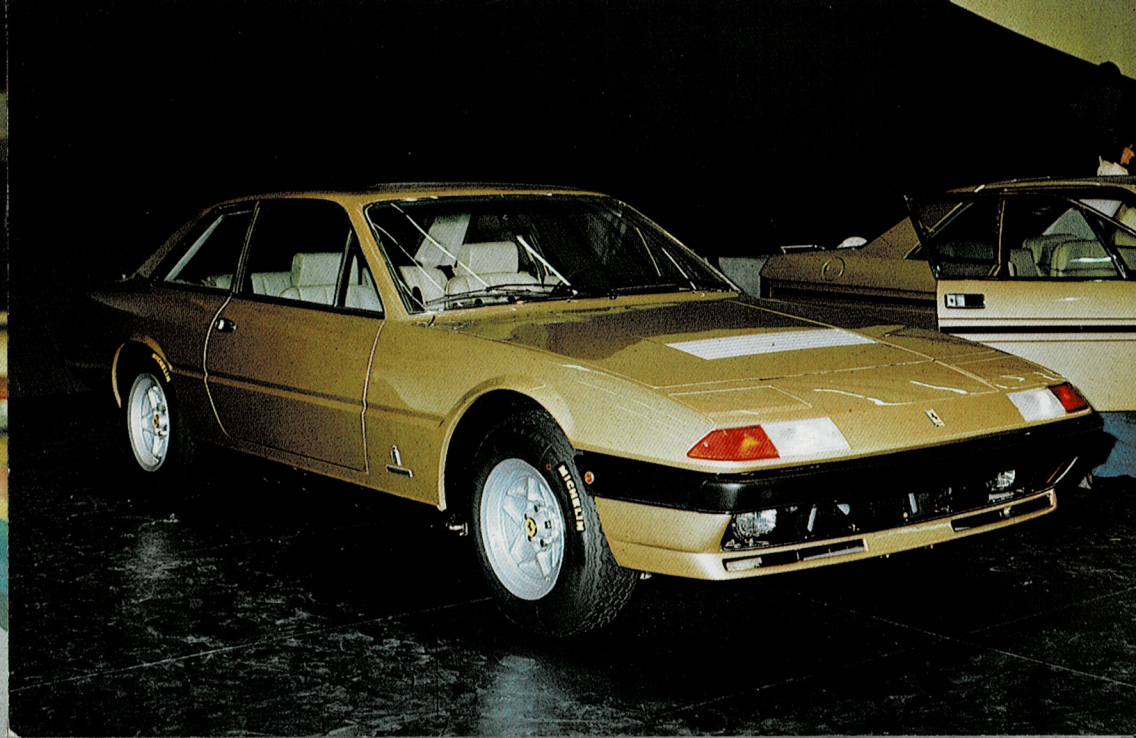
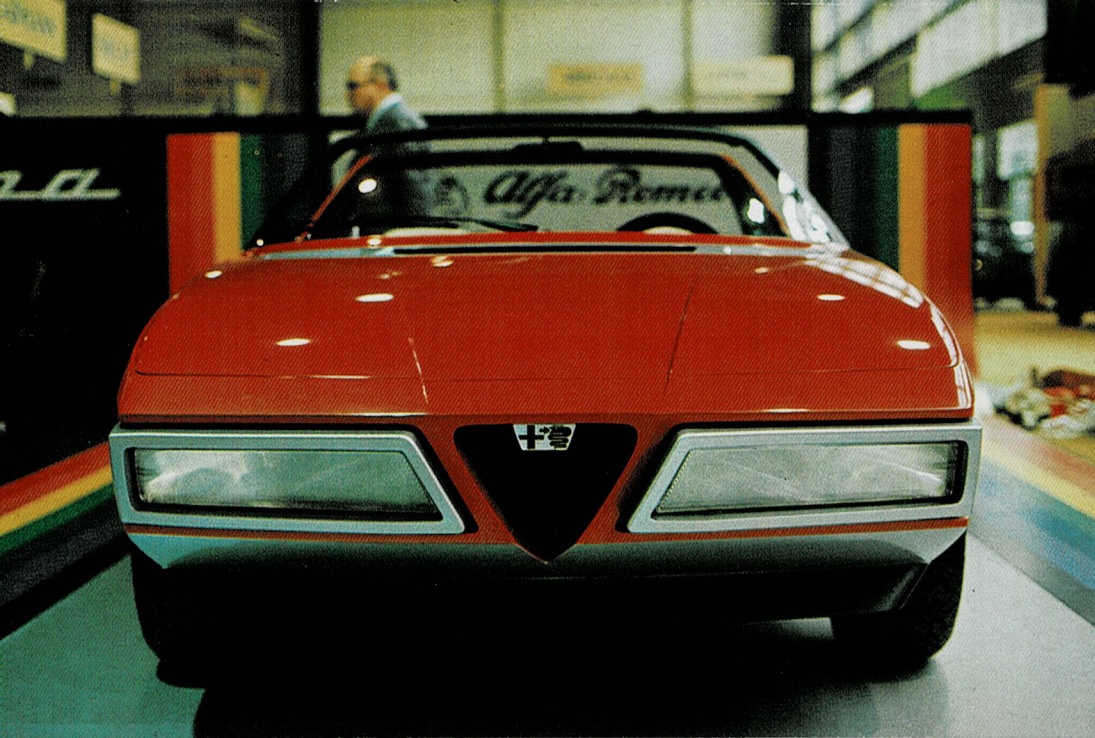
ピニンファリナ フェラーリ・512S (イタリア)



ピニンファリナは優雅なデザインを得意としている。空気力学の追求にも関心が強く、古くからレーシング・スポーツカーのボディなどでフェラーリとつきあいが深く、ウェッジタイプには、かなり早く到達していた。いままでに、ディーノ・ジネブラ、フェラーリ250/P 5、アルファ・ロメオ33スパイダー、最近では77年にフェラーリ308GTBを作っている。

〔スーパーカー豆事典〕 リトラクタブル・ヘッドライト：今日スーパーカーのスタイリングには欠かせないうめ込み式ヘッドライト。たいていは電動かバキュームで自動的に起き上って点灯する。

38



Alfa Romeo Eagle

ピニンファリナ アルファ・ロメオ・イーグル(イタリア)



アルフェッタGTをベースに、ピニンファリナが意欲的にとりくんだ、オープン・2シーター・スポーツのプロトタイプ。

左右に分かれたバンパーの中に角型のヘッドライトが組み込まれているのが、大きな特徴だ。

このバンパーはレジ(樹脂)でつくられ、軽量かつ十分な剛性をそなえている。FR駆動。

〔スーパーカー豆事典〕バックボーン・シャーシ：シャーシの型式の一つで、太い剛板で角形に組まれた骨が一本、車の中心に縦に置かれ丈夫にしている。ロータスなどがこれを使う。

Ferrari 400

ピニンファリナ・フェラーリ・400(イタリア)



フェラーリとしては初めての自動変速器がついている。アメリカ向けにつくられたもの。

デビューは1976年秋、パリ・サルーン。2ドア2+2、ピニンファリナデザイン。最高速度245km/h。

エンジンV12、4,823cc、340馬力/6,500rpm。軸距2,700mm、全長4,810mm、全幅1,800mm、全高1,315mm、車重1,880kg。

〔スーパーカー豆事典〕エアードラム：車の前方の浮き上りを押えるために前下部につけられた空気抵抗板。普通の車でも80km/h位できいてくる。これに対して後部スポイラーは約140km/h以下ではあまりきかない。

Alfa Romeo Eagle

ピニンファリナ アルファ・ロメオ・イーグル(イタリア)



フロントのバンパー同様、リヤもレジ(樹脂)で成型されている。その上にライト類がきれいにならぶ。

インテリアはシックな淡いブルーで仕上げ、計器類等も、デジタルで、SF映画にでもでてきそうなムードをかもしだしている。トランク・ルームには、タルガ・タイプのデタッチャブルのルーフが入れられる。

〔スーパーカー豆事典〕コンシールド・ワイパー：ワイパーが使わない時にボンネットにうめ込まれるタイプ。アメリカ車がい初めスポーツカーにも普及している。空気抵抗にも効果がある。

Alfa Romeo 33

ピニンファリナ アルファ・ロメオ33(イタリア)

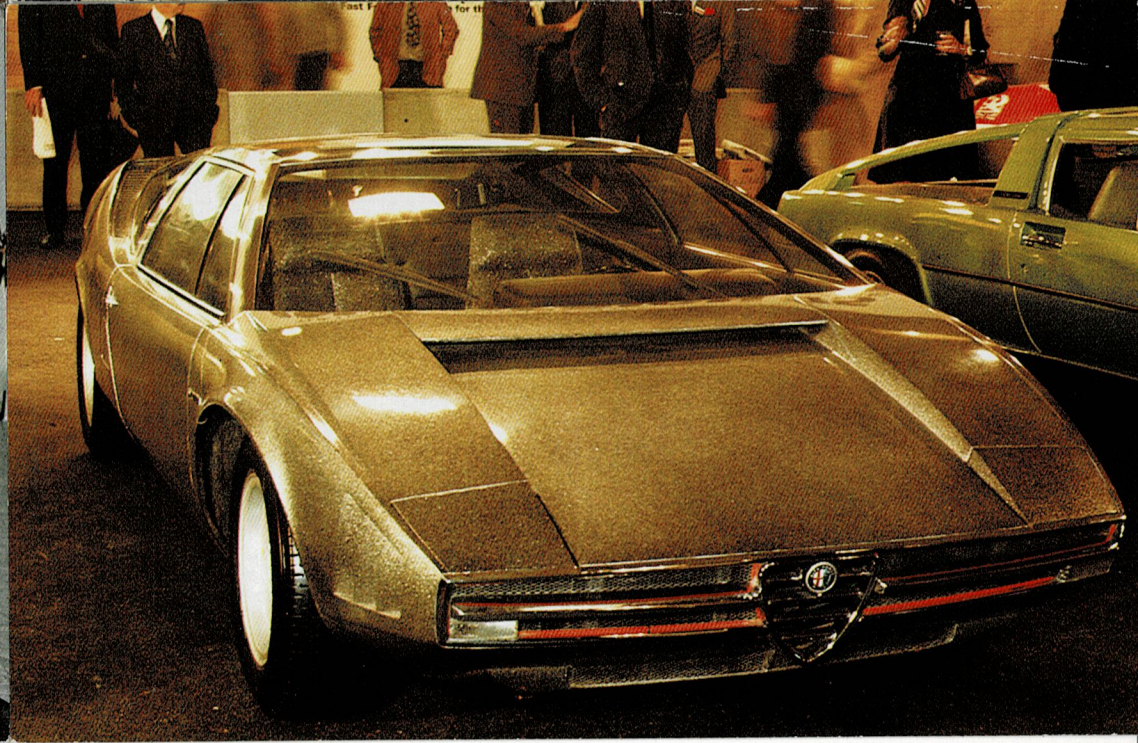
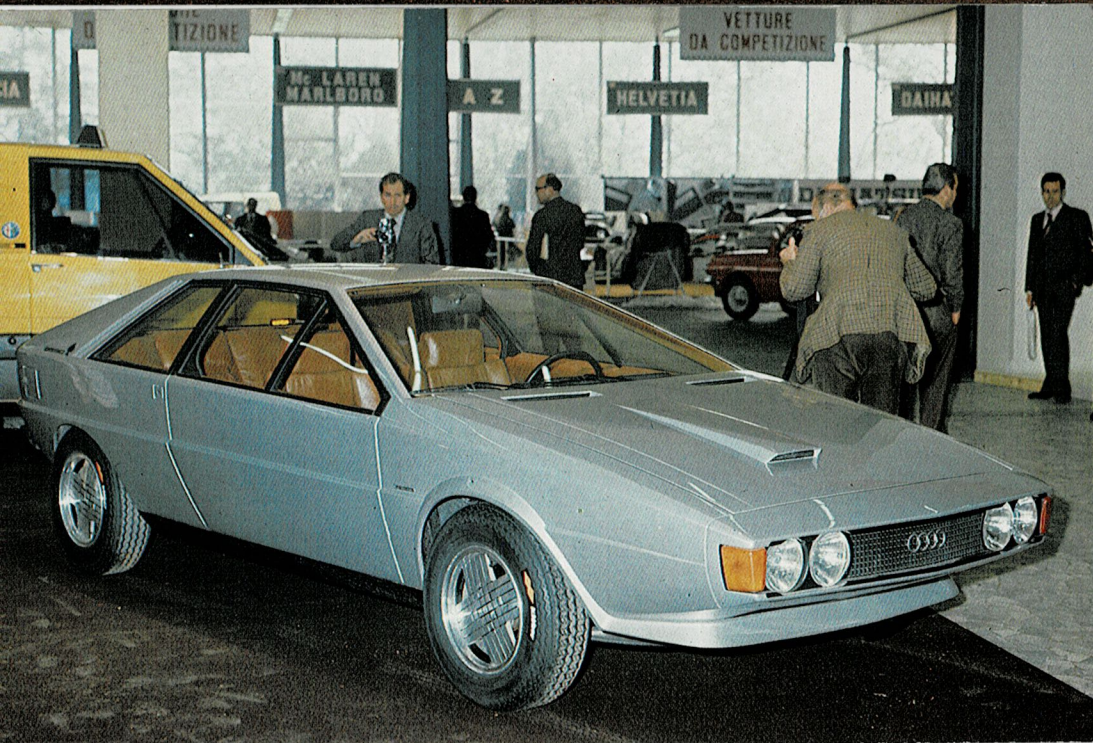
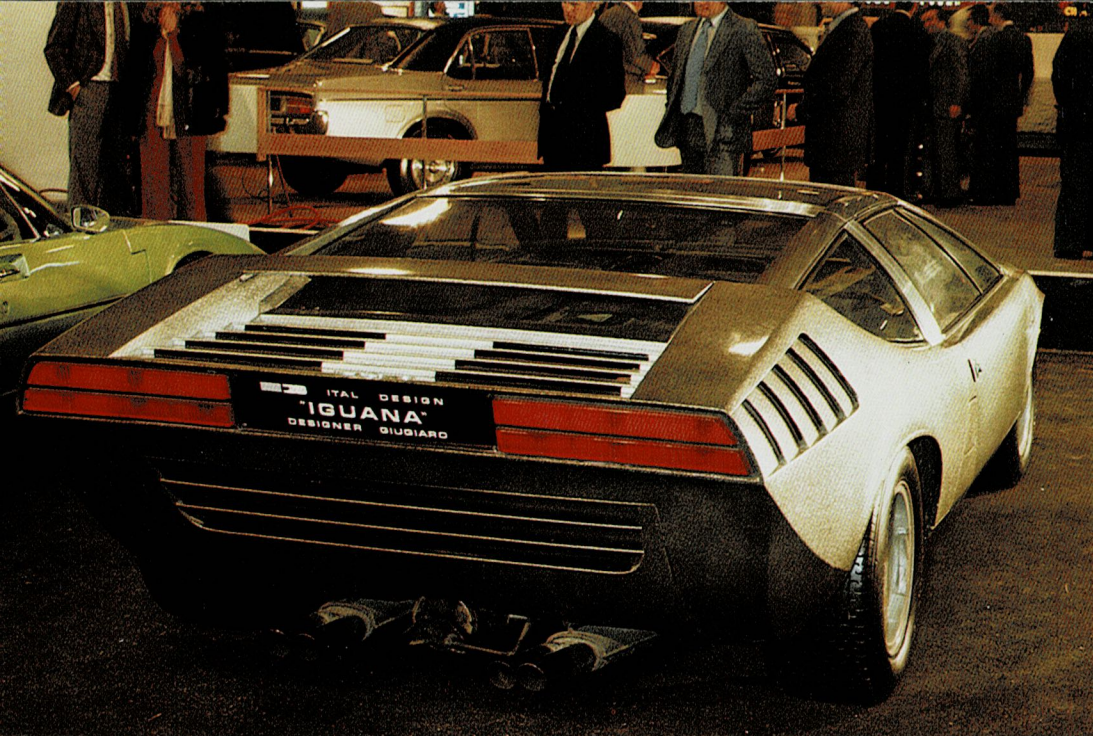


カーデザイン界の大御所ピニンファリナの芸術性と科学の粋を集めて、空気力学的必然性が加わると、こうなるといふ見本のような車。

ベースはフェラーリ・プロトタイプ250/P5と同じである。

6コのランプを並べたヘッドライト等は省略され、実戦向きの車となっている。

〔スーパーカー豆事典〕FRP(エフ・アール・ピー)：強化プラスチック。スポーツカーのボデー用として軽くて丈夫で補修も楽。レーシングカーに多い。一般車用としては耐久性が心配だ。



Alfa-Romeo Iguana

アルファ・ロメオ・イグアナ (イタリア)



イタル・デザイン。ジウジアーロのデザインを全世界のメーカーに売る少数精鋭の、デザイナー頭脳集団である。

ベルトーネ（年産30万台のボディ生産）とは比較にならぬほど小さな集団である。もちろん工場はあるが、アトリエといっていほどの小さな地下室があるにすぎない。

日本では鈴木のフロンテ・クーペがイタルの作品である。

〔スーパーカー豆事典〕 リフトバック：流行の後部ドア。スポーツカーでは特に荷物を積むのに便利だ。最も早く採用した生産型スポーツカーはイギリスのリライアントだ。

Alfa-Romeo Alfasud Caimano

アルファ・ロメオ・アルファスッド・カイマーノ(イタリア)



ジウジアーロデザイン。このカイマーノ(ワニ)と呼ばれる車は、アルファ・ロメオのアルファスッドのホイールベースを205mm縮めてつくり上げた、2シーター・スポーツクーペ。

大きな特徴は1969年に出品されたニッサン270 Xとそっくりであること(59参照)。ローラーバー上に電気モーターで角度の変るウィングがある。

〔スーパーカー豆事典〕 フュエル・インジェクション：日本語で燃料噴射装置。キャブレターに替って現在非常に多い。燃料を噴射ポンプとノズルでマニホールドに噴射する方式。ロスが少なく出力が上がる。

Audi 80 ASSO

アウディ80・アッソ (西ドイツ)



大メーカーの量産車のためにデザインをするジウジアーロのデザイン。クライアントは全世界におよび、日本でも、鈴木、いすゞ、三菱などが名をつらねている。

アッソとはランプのエースのことである。ロータス・エスプリのスタイリングを、フロント・エンジンのシャシー上に移植し、2座から4座クーペにしたもの。

〔スーパーカー豆事典〕 スパイダー：スパイダーはクモの意味だがオープン2シーターをイタリアーではスパイダーと呼ぶ。アルファロメオが得意とすることは。

Alfa-Romeo Iguana

アルファ・ロメオ・イグアナ(イタリア)

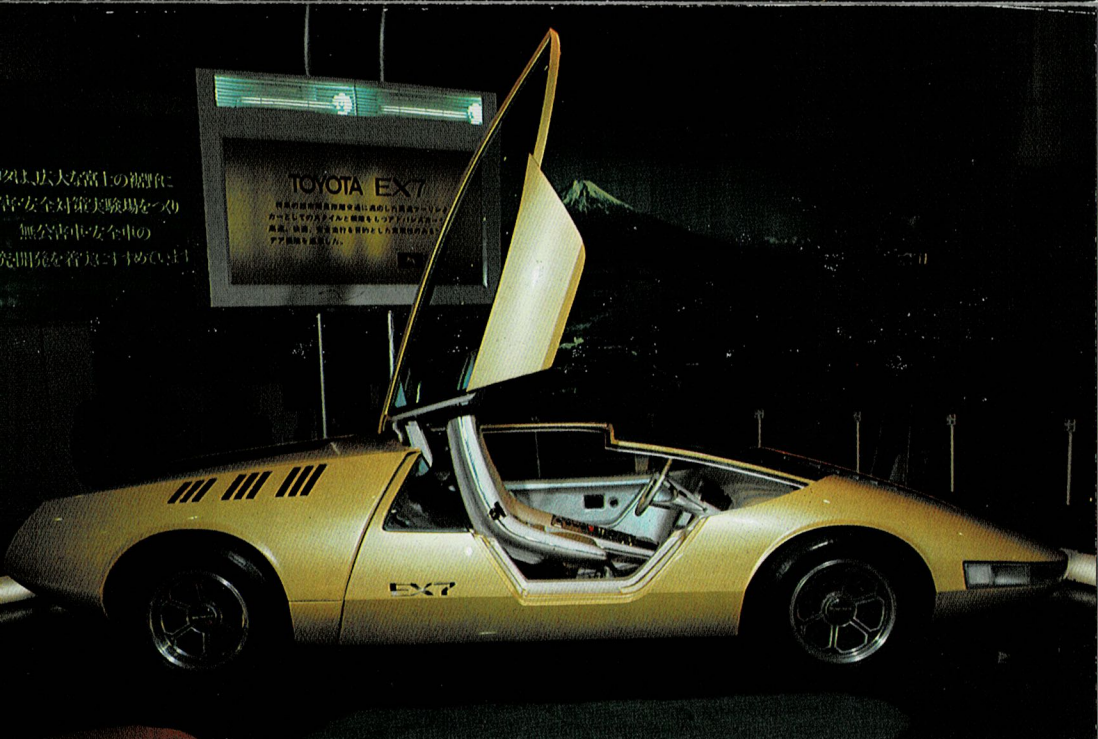


ミッドエンジン・プロトタイプのアルファ・ロメオT33をベースに、ジウジアーロが1万時間もかけてデザインにとりくんだといわれる。

ベルトーネ・ストラトスと並ぶ超スーパーカーといってもいいだろう。

塗装は黒地に銀粉をまぶして仕上げてある。

〔スーパーカー豆事典〕 ウェーバー：キャブレター会社の名前。スポーツカーに多く用いられ高性能、高出力で極めて安定が良い。



TOYOTA EX7



EX7の名称は、レーシングカーのトヨタ7のターボチャージ付5リッター・エンジンをのせているところからきている。

電子制御装置、安全運転装置等様々なアイデアが組みこまれている実験車。

上方に開くドアなどは、日本のランボルギーニ・カウンタックとの評判も高い。

〔スーパーカー豆事典〕 バケットタイプ・シート：レース用に特に造られた深いシート。本当はドライバーの身体に合わせて造る。一般スポーツカー用のものはバケット的(タイプ)シートというわけ。

51

Lotus GS



ロータス・GS (イギリス)

ロータス・ヨーロッパをベースにつくりあげたグラン・ツーリスモ。

フロントのウィンドシールドと左右のドアは、経費節約のためオリジナルをそのまま使用している。

エンジンはコスワースBDA1.6ℓ、165ps。

コーリン・チャプマンの協力で完成されたものである。

〔スーパーカー豆事典〕 ベルリネッタ：イタリア語でスポーツクーペで特に高性能クーペを意味する。これに対してイタリアではセダンをベルリーナと呼ぶ。

49

TOYOTA EX7



未来の高速ツーリングカーをめざす流麗なボディをもつ2シーター・ドリームカー。

全長4,300mm、全幅1,842mm、ホイールベース2,250mm、ディスクブレーキ。低い車高(1,050mm)のため、フロントシートはボタンひとつで浮きあがるようになっているが、これは乗り降りをラクにするためである。

〔スーパーカー豆事典〕 ド・デイオン：ド・デイオン博士が発明したリア・アクスルのタイプ。左右独立のシャフトをもちながら太い管で基をつなぐ方式で、正式には独立懸架ではない。

52

Sbarro

ピエール・カルダン・スバツロ(スイス)

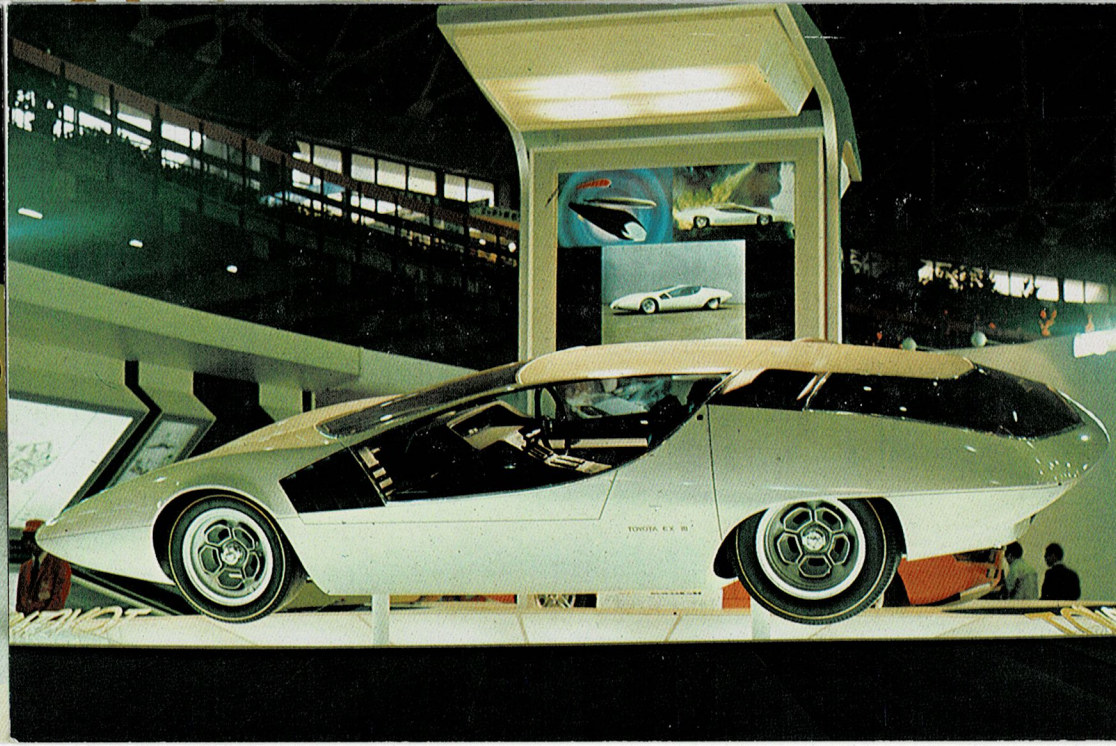
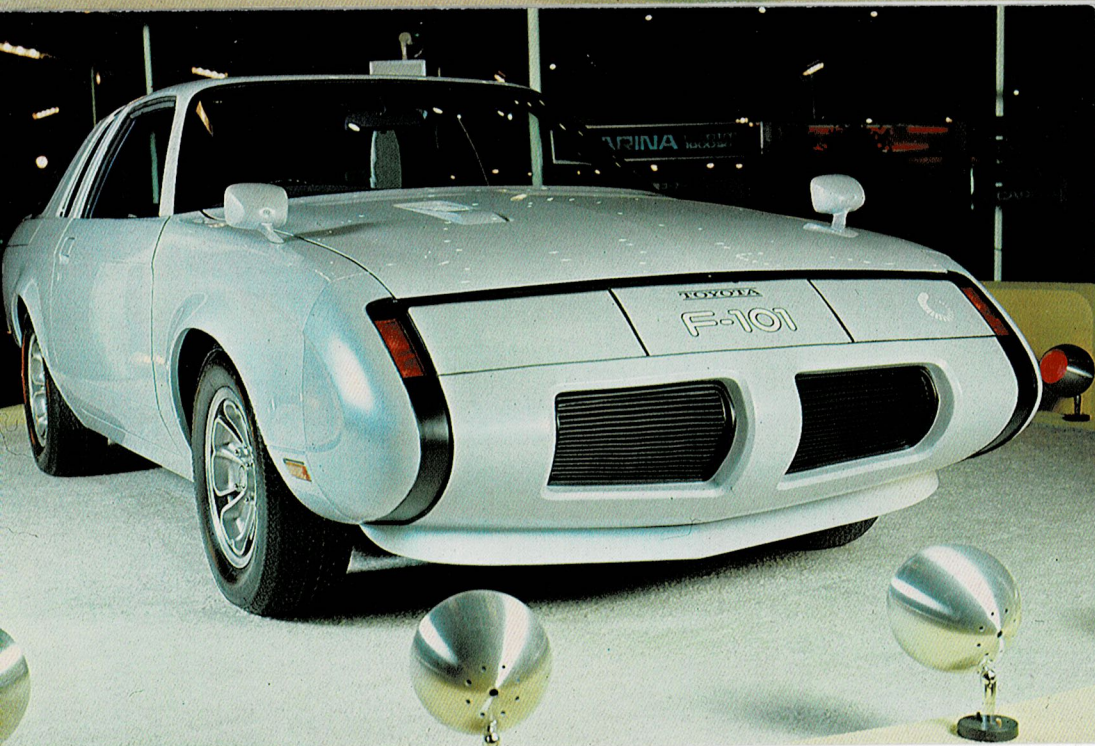
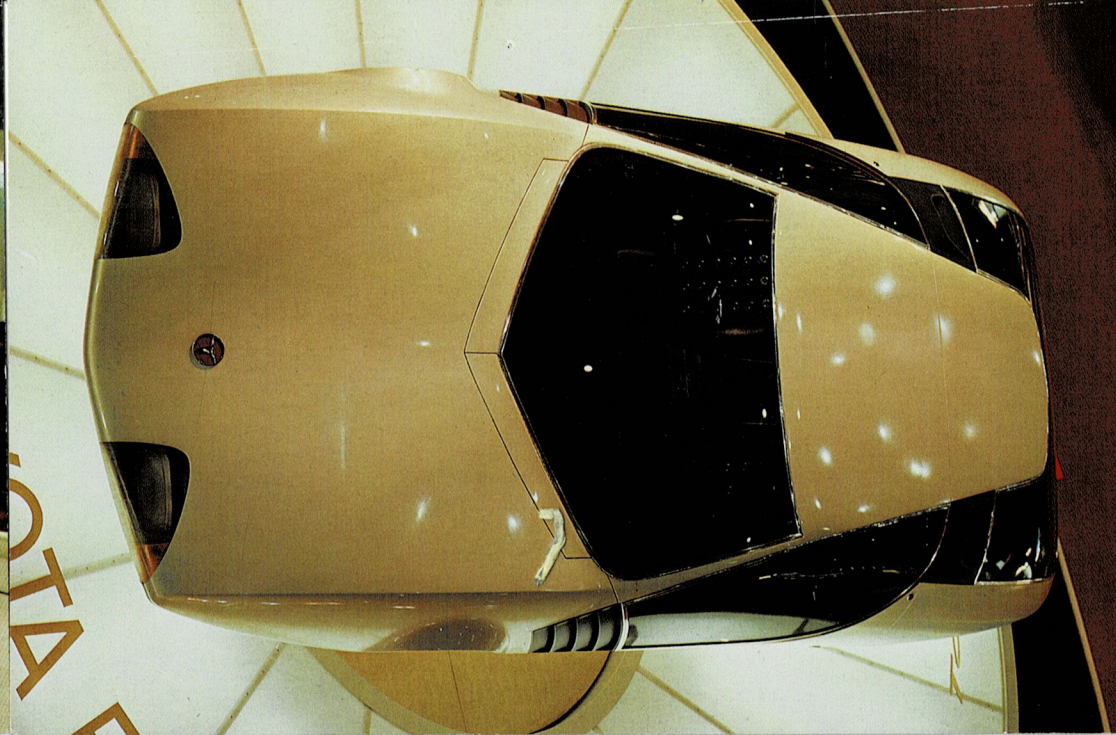
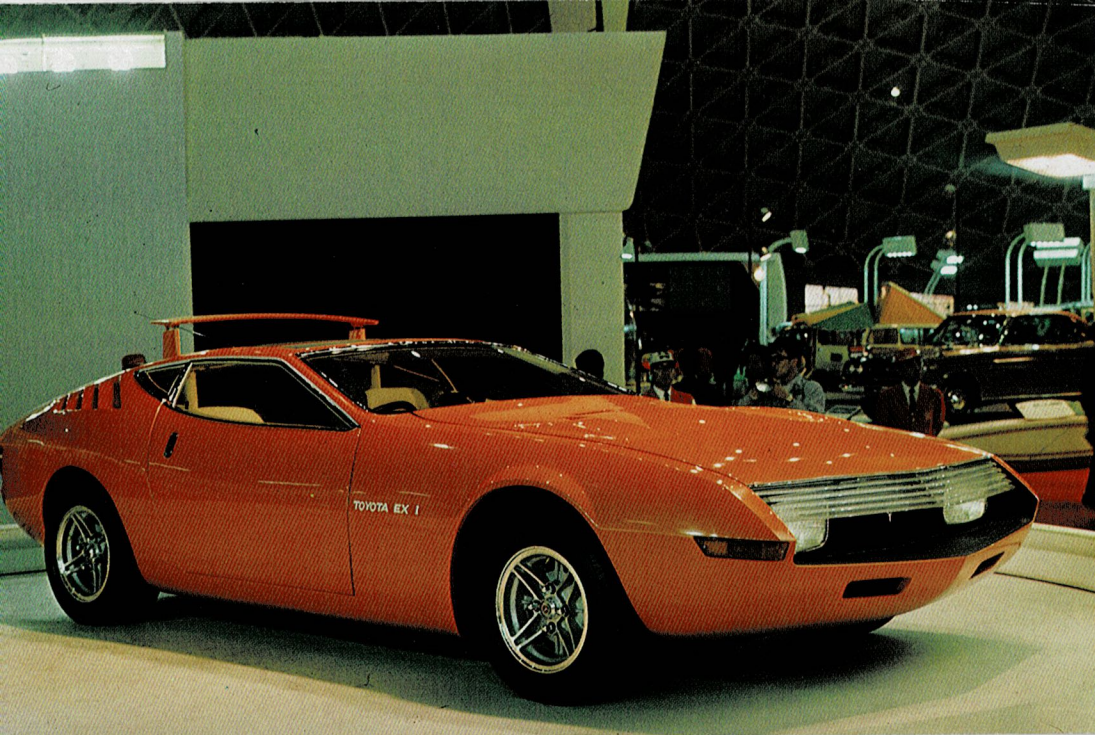
あまりにも有名な、ファッション界の大御所、ピエール・カルダンがカーデザインに挑戦してつくられた。

機械部分はカロツツェリアス・スバツロが担当。

ベースはスバツロのGTカースタッシュ。水冷4気筒、1,803ccに燃料噴射装置、ターボ・チャージャーをつけている。車重1,080kg、最高速度210km/h。

〔スーパーカー豆事典〕 ストライプ：ボディにスポーティなラインを入れること。レースで有名なマーチーニの赤・青・白のストライプから、一本の簡単なものまで。ひとつのファッションでもある。

50



TOYOTA EX I



低いエアロダイナミックなボディ。フロント上部の五層の透明なバーはパッシングライトと車幅灯のイルミネーション。

ブロンズ色ガラス張りのルーフは広くクリアーな視界を確保。

ワイパーはカバーに格納され、空気抵抗の点に有利。

窓は全部密閉式で、強制換気システムとエアコンとに切り換え可能。

〔スーパーカー豆事典〕 ラダー・フレーム：ハシゴ形フレームのこと。昔はほとんどハシゴ形シャーシにボデーをのせたが、現在では少ない。モーガン、エクスカリバーなどが今日も使う方式。

TOYOTA EX7



未来のハイウェイ用として開発中の高速化と安全性を極限まで追求したモデル。

FRP製のボディはすべて底部もなめらかな曲面で、これは床下の渦流をなくすため。

超高速では空気抵抗が最大の問題となるので渦流防止に神経が使われている。

〔スーパーカー豆事典〕 スーパーラジエラ方式：スポーツカー・シャーシの形式のひとつ。ツーリング社がアストンマーチンに使用している。床板に細いパイプを組み、それにアルミパネルを張るボデー作製方法。

TOYOTA F101



トヨタが指向しているレジャー・ビークルにESVの要素をもちこみ、未来のセダンを目指したもの。

リヤは歩道側に大きく開くガル・ウィング式ドア。

ノーズの開口部や全体に丸いスタイリングにトヨタのイメージを感じさせる。

排ガス対策などで悩む業界に、夢を与えてくれた車といえよう。

〔スーパーカー豆事典〕 マグホイール：バネ下重量を軽くすることは大切だが、マグネシウム製のホイールは仕上がりが美しく軽く丈夫。非常に高価だ。

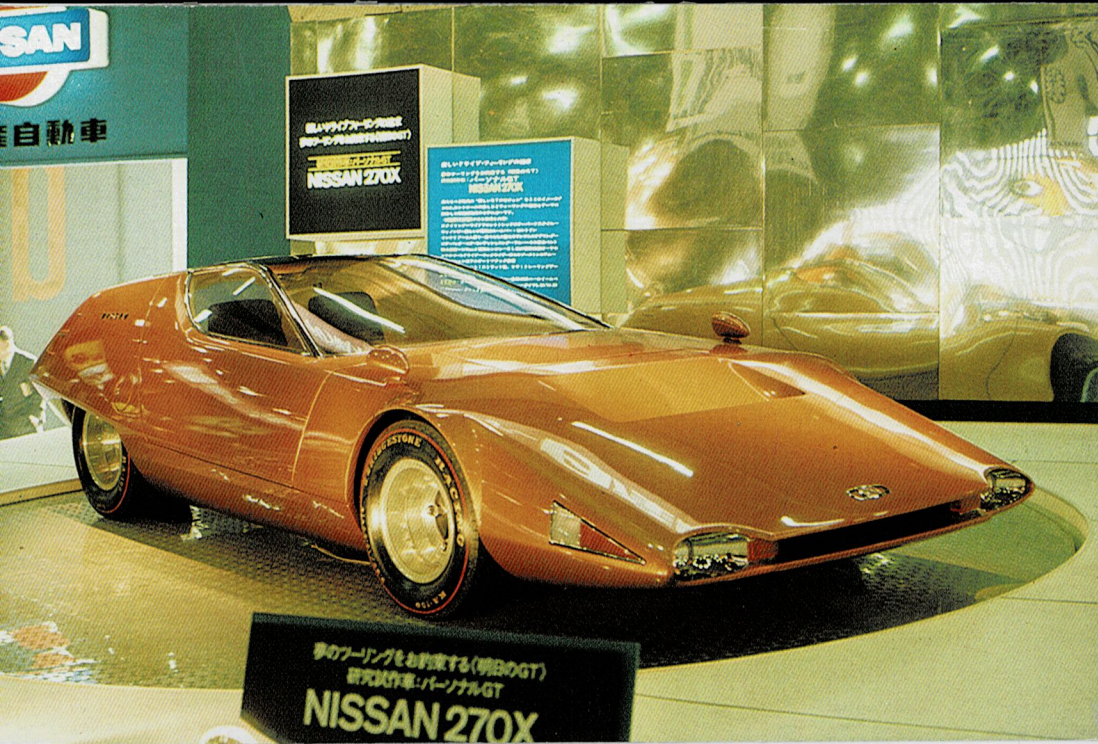
TOYOTA EXIII



低いボディはすべて曲面構成。計器盤は中央に島状に独立した形で設けられ、ステアリング・ホイールがその一端につく。

連続高速運転時にスピード一定を保つスピード・コントロール・レバー、自動変速機のシフト・レバー、このシフト・レバー2本がインスツルメント・パネルに続くコンソールにある。

〔スーパーカー豆事典〕 モノコック：ハシゴ形のフレームをもたず床もボデーと一体ではじめから造られる方式。一般車はほとんどこの方式。スポーツカーにも増えてきた。



NISSAN 270X

NISSAN

燃料噴射装置付きの1,171ccエンジン搭載、駆動方式FF、自動変速機7ポジション。

全長4,210mm、全幅1,700mm、全高1,050mm、ホイールベース2,335mm、定員2人。くさび型のシャープなスタイル。前ヒンジのキャノピー。ワイドトレッド。研究開発用モデルカー。

後半部の処理はニッサン・チェリーと共通なものを感じる。

〔スーパーカー豆事典〕 ヴィンテージ・カー：1930年代には特に自動車技術が進歩して優れた車ができた時代で、外国ではブドウの秀作の年をヴィンテージという、したがって優れたクラシックカーの意味。

NISSAN AD 1

NISSAN

試作車として製作。

全長3,870mm、全幅1,630mm、全高1,190mm、ホイールベース2,340mm、車重740kg、回転半径4.8m、エンジンA14をミッドシップ横置。タイヤ165/70HR13、ミッション5速。

ステアリング、ラックアンドピニオン、ディスク・ブレーキ。燃料60ℓ。1台現存する。

〔スーパーカー豆事典〕 ファストバック：屋根から後部までなだらかなスロープでルーフィングをのばすスタイリングの形式。スポーツカーには特にこの方式が多く空気抵抗にも有効。

NISSAN 126X

NISSAN

スタイルは中央に切り込まれたタテミゾが特徴で前衛的。室内には電話や、バックミラーのかわりに、テレビで後方を写す装置がついている。

座席後部に、水冷6気筒3,000cc・180psエンジンを搭載している。定員4人。追突防止の接近警報装置やクルマの状態を知らせる集中警報装置などがついている。

〔スーパーカー豆事典〕 マイナー・チェンジ：よく聞く言葉だが、スタイルの一部を修整すること。特にスポーツカーは生産量が少ないのでスタイルを全部変更することは少ない。

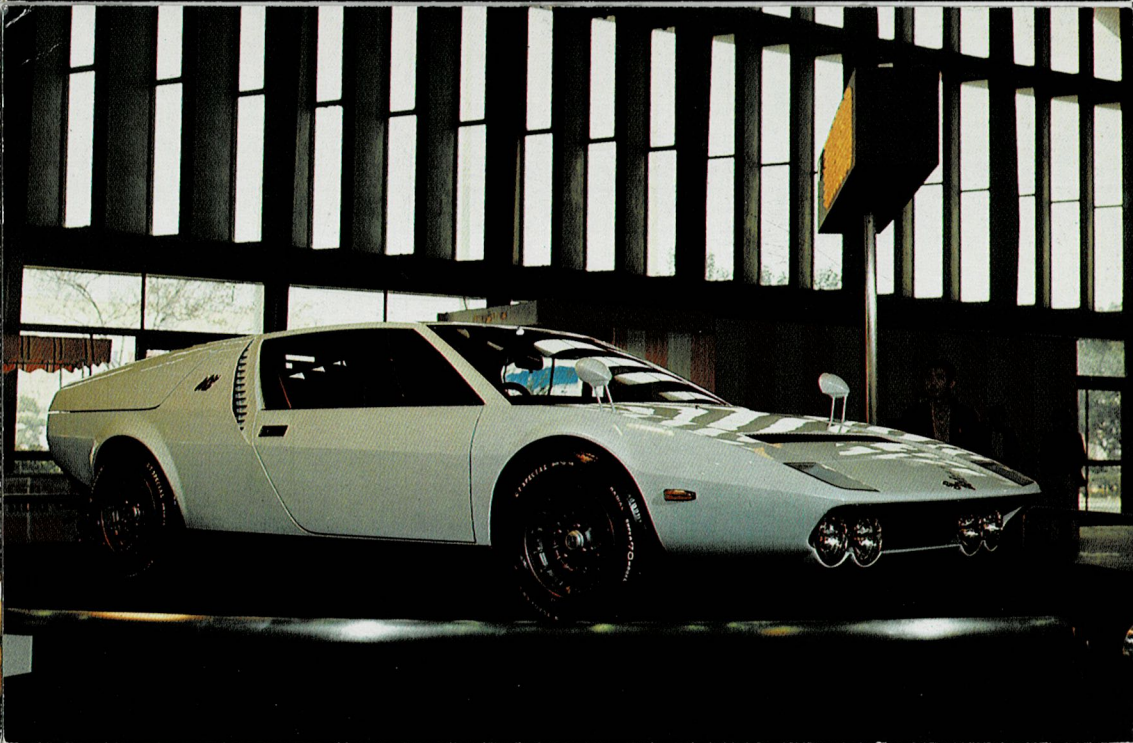
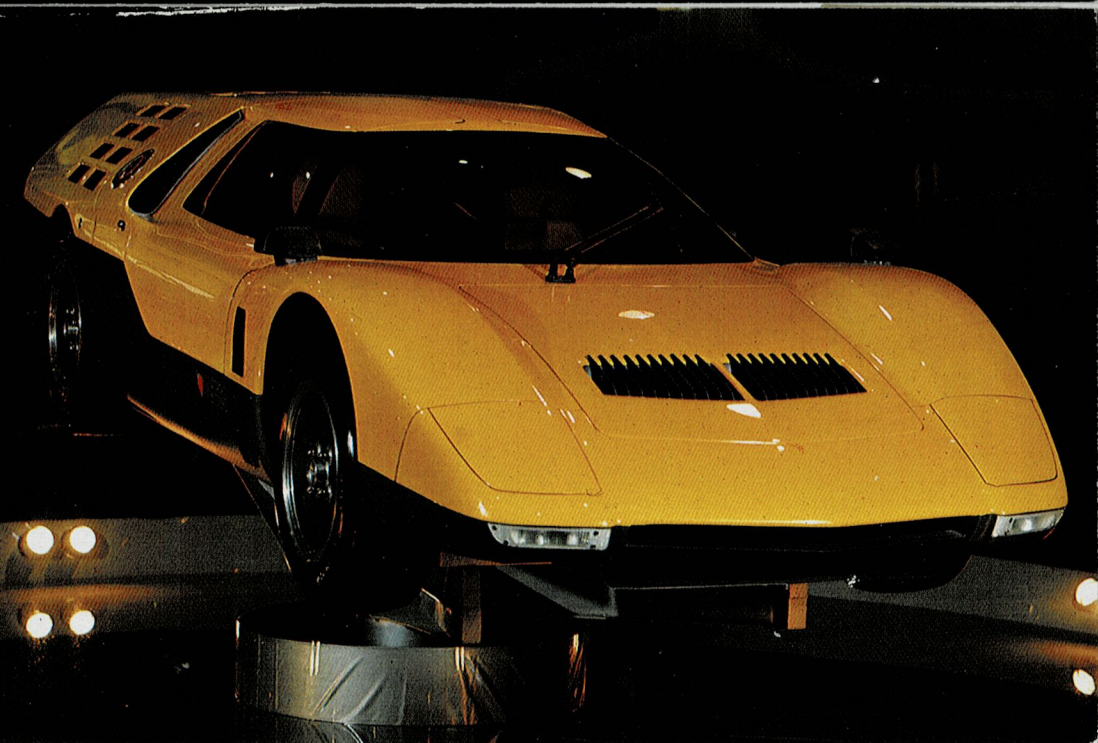
NISSAN 216X

NISSAN

実用化を考えずに、ショーのために、デザインのみを追求した、日産の未来の車。したがってボディ（樹脂で成形されている）のみで中味はない。

イタリアなどは、ショーのためにつくられたものでも、注文があれば製作されるが、日本の場合、産業がアメリカ的（オートメーションで量産する）なので、イタリア式だと膜大な金額になってしまう。

〔スーパーカー豆事典〕 フェイス・リフト：マイナー・チェンジにも含まれるが、フェイス・リフトは前部のスタイルのみ手直しする方式だ。



MAZDA ローターリー RX500

mazda

東洋工業の創立50周年を記念してつくられたプロトタイプ。

マツダの自社デザインで、ロータリー・エンジンのミッドシップ形式を採用している。

日本での道路の高速化にともない、超高速におけるデーターをあつめる目的で作られているようだ。

ロータリー・エンジンは、ベンツ C11と同じ。

〔スーパーカー豆事典〕 シルエット・フォーミュラー：ヨーロッパのスポーツカー・チャンピオンシップのグループ5に出場する車ではかなり改良が許されるので最近ではフォーミュラーカー並の形にされている。ポルシェ 935 など。

ISUZU MX1600



MX1600のMXはミッドシップ実験車を意味する。

ミッションはヒューランド製5速、120psのままで220km/h以上の高速性能を発揮する。

シャシーの主ナンバーは鋼板箱型断面のサイドシルとバルクヘッドのモノコック構造。

生産化にあたっては、ボディはFRPを使用するため車重も軽量。

〔スーパーカー豆事典〕 トルク：エンジンの回転力。高性能スポーツカーでは高い回転で強いトルクを得られるよう調整されている。したがって常に高い回転を保ちながら走ることが必要。

MAZDA ローターリー RX500

mazda

プロトタイプであるが、どちらかといえばレーシングタイプ。

実用車になると評判であったが、いまだ市販されていない、日本のスーパーカー。

前ヒンジで左右にドアがルーフごと一緒にもちあがるシステムが、大きな特徴となっている。

デザインの美的には優等性的すぎるとの評もある。

〔スーパーカー豆事典〕 フルハーネス：レース用のセーフティベルトで乗用車が普通3点支持式のに対して4点～5点式でドライバーを完全にバケットシートに押えつけている。

ISUZU MX1600



全長4,100mm、全幅1,650mm、全高1,100mm、ホイールベース2,400mm、トレッド前後とも1,380mm。

ノーズがあくまでも低く、ウェッジ・タイプの空力的ボディ・スタイル。

電動リモートコントロールのスポイラーで高速走行時の前輪の浮きを防止する。

〔スーパーカー豆事典〕 オイルクーラー：エンジンのオイルは大切な冷却効果を受けもっている。スポーツカーではオイル温度が上るので前にラジエーターのようなオイルを冷すクーラーをつけている。



ランボルギーニ・カウンタック LP400

ランボルギーニ・ミウラ

ランボルギーニ・イオタ

ランボルギーニ・シルエット

ランボルギーニ・ウラッコ

ランボルギーニ・カウンタック SS

ランボルギーニ・エスパーダ

ランボルギーニ・ハラマ

ボルシェ 930ターボ

ボルシェ 934ターボ

ボルシェ 924

ボルシェ 911カレラ

ボルシェ 911S

ボルシェ 911タルガ

ボルシェ 914

フェラーリ 512BB

フェラーリ デイトナ

フェラーリ 308GTB

フェラーリ 246GT

フェラーリ・ディノ 308GT4

マセラティ・メラクSS

マセラティ・ボラ

マセラティ・カムシン

マセラティ・ギャラミ

マセラティ・インディ

アルビーヌ・ルノー A110

アルビーヌ・ルノー A310

デ・トマソ・パンテラGT4

デ・トマソ・パンテラGTS

ランチャ・ストラトス

パンサーJ72

ロータス・ヨーロッパ

ロータス・エスプリ

ロータス・エリート

ロータス・エクラ

シボレー・コルベット・ステイティングレー

アストンマーチン V8

アストンマーチン・ラゴнда

メルセデス・ベンツ C111

ジャガー XJ-S

ポントアック・ファイアバード・トランザム

エクスカリバー

BMW 633csi

MG MGB GT

AC ME3000

TVR ターボ

TVR 3000M

ビュイック・スカイホーク・インディスベシャル

0636-771220-7339 ¥690

[1] 人気爆発...これが噂のスーパーカー!

ランボルギーニ・カウンタックLP400

ランボルギーニ・ブラボー

ランボルギーニ・ミウラ

ランボルギーニ・チータ

ボルシェ 928

フェラーリ 512BB

ランチャ・ストラトス

[2] 世界に1台...これが幻のスーパーカー!

オベル GT2

ポントアック・トランザム・タイプK

ギア コリダー

ギア メガスター

メリニャック クーベ

ミケロットイ ランチャ・カレラ

フォード GT70

ベルトーネ アスコット

コルベット 2ローター

SRV ボグゾール

ベルトーネ ストラトス

ベルトーネ アルファロメオ・ナバホ

ベルトーネ フィアットX1/9ダララ

ベルトーネ フェラーリ 308GT レインボー

ビンファリナ フェラーリ 512S

ビンファリナ フェラーリ 308GTB

ビンファリナ フェラーリ 400AT

ビンファリナ アルファロメオ 33

ビンファリナ アルファロメオ・イーグル

アルファロメオ・アルファード・カイマーノ

アルファロメオ・イグアナ

アウディ 80 アッソ

ロータス GS

ビエール・カルダン スパッコ

[3] 日本でもつくられていた幻のプロトタイプ!

TOYOTA EX7

TOYOTA EXIII

TOYOTA EX I

TOYOTA F101

NISSAN 126X

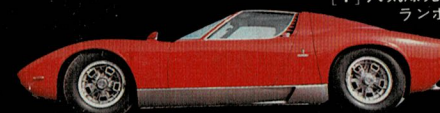
NISSAN 216X

NISSAN 270X

NISSAN AD1

ISUZU MX1600

MAZDA ロータリー RX500



0636-771223-7339 ¥690